

# 米に関するマンスリーレポート

(平成30年2月号)



「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！  
[http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome\\_seisaku\\_kaikaku.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html)

#### 【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

#### 【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

# 今月の特集

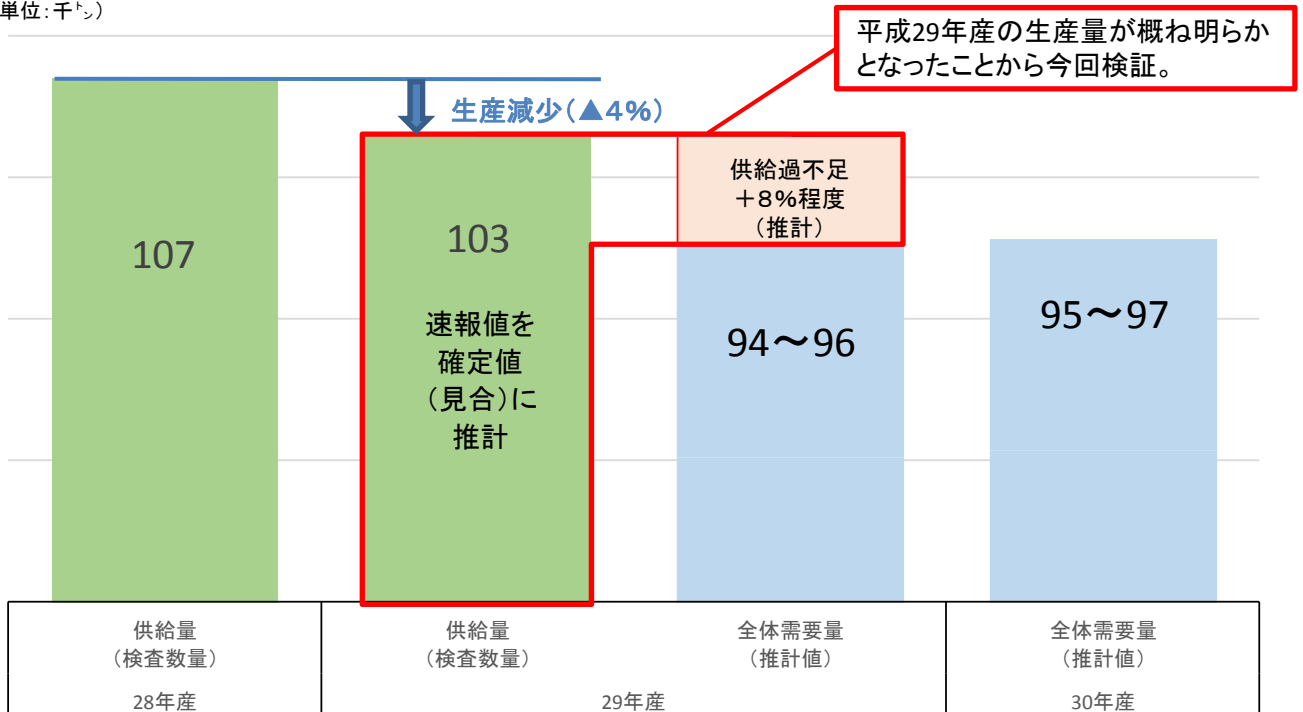
## 【酒造好適米の平成29年産生産状況】 (農産物検査結果に基づく推計)

### 【酒造好適米の平成29年産生産状況】

- 平成29年産の酒造好適米の生産量については、平成29年産の需要量（94～96千ト）（推計値）と均衡させるためには平成28年産の生産量（107千ト）から▲10%程度の生産減が必要としていたところ。
- 今般、平成29年産酒造好適米の農産物検査数量（12月31日現在）がとりまとめられ、生産概況が明らかとなったが、五百万石を中心に生産量が減少し、生産量は平成28年産から▲4%程度（▲4千ト程度）の103千ト程度と見込まれる。
- この結果、平成29年産米の需給は、生産量が需要量を8%程度上回る状況と見込まれる。
- 平成30年産の作付けに当たっては、引き続き需要量調査結果や生産量等のデータを参考にしつつ、自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要と考えられる。

### 酒造好適米の全体需給状況見通し(推計)

(単位:千ト)



注1: 供給量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、平成29年産は、平成29年12月31日現在の速報値を直近3力年の12月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計。

注2: 平成29年産及び平成30年産の需要量は、平成29年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する可能性があることに留意する必要がある。

## 平成29年産酒造好適米の銘柄別生産状況

- 平成29年産酒造好適米の生産量は、直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率から103千トと推計。平成28年産に比べて▲4%程度となる見込み。
- 主要な品種では、山田錦は増加する一方、五百万石及び美山錦は減少する見込み。特に五百万石は、主産県において需要に応じて作付面積を減らしたことや作柄が悪かったことなどから2割近く減少する見込み。

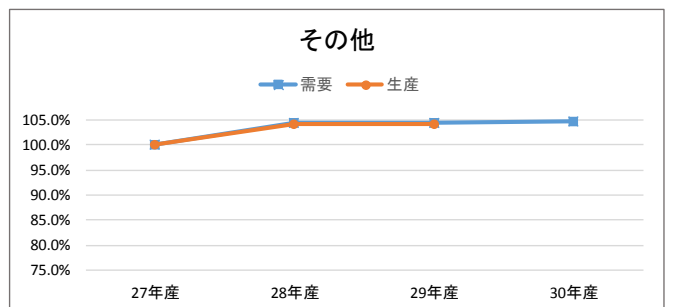
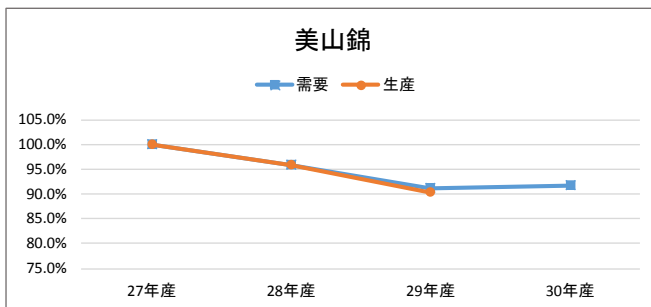
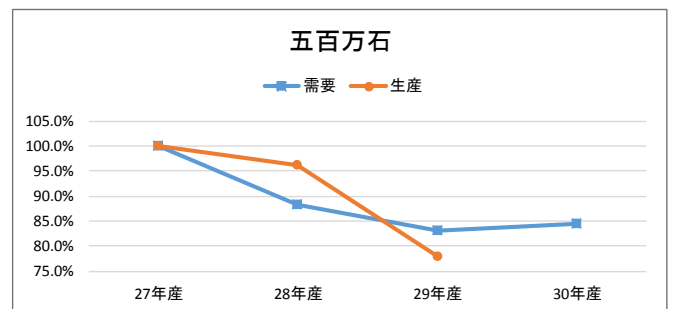
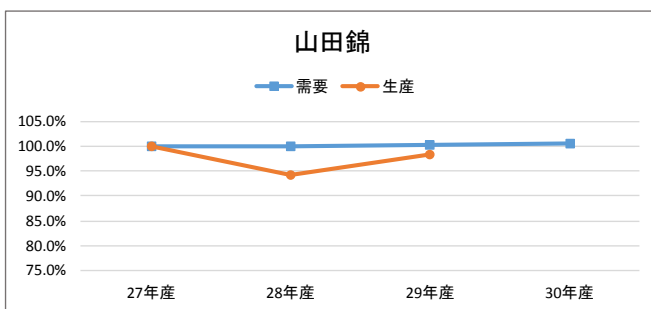
## 農産物検査結果及び29年産生産量の推計

(単位:トン、%)

品種	26年産		27年産			28年産			29年産		
	12月31日現在	確定値	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	推計値	対前年比
山田錦	28,765	29,812	37,697	39,549	132.7%	36,563	37,257	94.2%	37,558	38,880	104.4%
五百万石	20,980	22,596	24,497	27,078	119.8%	22,644	26,030	96.1%	19,017	21,107	81.1%
美山錦	8,010	7,786	7,565	7,838	100.7%	7,272	7,513	95.9%	6,977	7,069	94.1%
その他	28,489	29,991	32,750	34,332	114.5%	33,165	35,817	104.3%	33,490	35,743	99.8%
総検査数量	86,244	90,185	102,509	108,797	120.6%	99,644	106,618	98.0%	97,042	102,799	96.4%

## 生産量と需要量の増減率の比較 (平成27年産基準)

- 平成27年産を基準として酒造好適米の生産量(農産物検査数量)と需要量(需要量調査報告数量)の増減率を比較すると下表のとおりであり、全体的にはほぼ需要の増減の動きに応じた生産動向となっていることがうかがえる。
- 下表は需要動向に応じた生産動向となっているかを増減の動きで検証したものであり、定量的、地域的な需要の過不足を表しているものではないことに留意。したがって平成27年産において需給が均衡していたとするものではない(平成27年産は酒造好適米全体で生産量が需要量を10%程度上回る状況)。
- 平成30年産に向けて、各産地においては、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率や作況等のデータを参考にしつつ、これまでの自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、引き続き、需要に応じた生産に取り組むことが重要。



以上のほか、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率等の詳細な情報は、以下のURLを参照ください。

URL : [http://www.maff.go.jp/j/seisaku\\_tokatu/kikaku/sake.html](http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html)

# 「お米の輸出動画」 配信中！

## お米の新しい市場を開拓！ 「日本のお米の輸出」について

お米の輸出の可能性や農水省の輸出促進の取組について解説した動画を配信中！

「どうして今、お米を輸出するの？」「今、生産者や事業者の人はどんなことに取り組んでいるの？」という疑問にお答えします！



Youtube・農林水産省ホームページで公開中です！  
(詳しくは裏面をご覧ください)

以下のQRコードからもご覧頂けます

1分ダイジェスト版はこちら→



<https://youtu.be/Cp6xPSbXJFQ>

本編(15分)はこちら→



<https://youtu.be/kSEcJhVpgac>

本動画は、お米の輸出の概況や輸出拡大に向けた国の取組について、農林水産省の柄澤政策統括官が解説します。

また、生産者や事業者の方に、海外向けのお米の生産・販売における具体的な取組内容をご紹介します！

本編の内容について1分程度でまとめたダイジェスト版も公開しておりますので、ぜひご覧下さい！

## Youtubeから見る

Youtubeの検索バナーで「お米の輸出」と検索！

お米の輸出

×



(URLはこちら)

本編：<https://www.youtube.com/watch?v=Cp6xPSbXJFQ>

ダイジェスト版：<https://www.youtube.com/watch?v=kSEcJhVpgac>

## 農林水産省HPから見る

トップページの「キーワード」にある「米の輸出」をクリック！

(ホーム > 政策統括官 > 米(稲)・麦・大豆 > 米の輸出について)

農林水産省

English キッズサイト サイトマップ 文字サイズ 標準 大きく

会見・報道・広報 政策情報 統計情報 申請・お問い合わせ 農林水産省について

逆引き事例から探す 組織別から探す キーワードから探す Google カスタム検索 検索

注目情報 注目情報一覧 >

- ※ 改めの農林水産省実行本部が開催されました
- ※ 農林水産省IPP等対策本部が開催されました
- ※ 平成30年度農林水産予算概算要求の概要について

写真を見る 見る >

① キーワード

- ※ 農業競争力強化支援法
- ※ 「まるみえアグリ」
- ※ 農業技術総合ポータル
- ※ 収入保険制度
- ※ 米政策の発展
- ※ 米の輸出
- ※ 食料自給率・食料自給力
- ※ 輸出促進
- ※ 経営所得安定対策
- ※ 農地中間管理機構
- ※ 6次産業化
- ※ JAS規格
- ※ 和食
- ※ 農業女子
- ※ ディスカバー農山漁村(むら)の宝
- ※ 食育
- ※ 高病原性鳥インフルエンザに関する情報

キーワードの「米の輸出」をクリックすると「米の輸出について」のページに移動します！

URL：<http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/>

[soukatu/kome\\_yusyutu/kome\\_yusyutu.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html)

お問合せ先：農林水産省政策統括官付農産企画課  
(TEL：03-6738-8964)

# 目次

## 特集 酒造好適米の平成29年産生産状況

I	米の需給・契約・販売	
1	米の基本指針（平成29年11月30日）	
	（1）米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針	1
	（2）平成29/30年の主食用米等の需給見通し	1
	（3）平成30/31年の主食用米等の需給見通し	2
2	米の契約・販売	
	（1）政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入札の結果	3
	（2）平成29年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成29年12月末現在）	4
	（3）産地別事前契約数量	7
II	米の在庫情報	
	（1）全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成23年7月末～平成29年12月末）（速報）	9
	（2）産地別民間在庫の状況（前年同月比）	11
	（3）平成28・29年産の産地別民間在庫の推移 （うるち米、平成29年7月末から平成29年12月末）（速報）	12
III	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
	（1）相対取引価格（年産別）	20
	（2）価格帯別分析結果（平成29年12月）	21
	（3）相対取引価格・数量（平成29年産米、産地品種銘柄別、平成29年12月分）	22
	（4）スポット価格の状況	25
2	米の先物取引価格の推移	26
3	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成30年1月分）	27
IV	主食用米以外（輸出を含む）	
1	29年産米の作付状況	
	（1）29年産米の用途別作付面積及び生産量	29
	（2）主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	29
	（3）新規需要米の用途別認定状況	29
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	30
	（1）28米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計）	30
	（2）加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移	31
3	飼料用米の需要量	32
4	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	34
5	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	35
V	支援事業等	
	（1）水田活用の直接支払交付金	36
	（2）畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	40
	（3）米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）	42
	（4）主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	44
	（5）コメ海外市場拡大戦略プロジェクト	46
VI	消費動向	
	（1）米の消費動向（米穀機構による調査）	48
	（2）購入数量の推移（家計調査）	49
	（3）消費者物価指数の推移	50
	（4）小売物価統計の推移	51
	（5）小売価格の推移（POSデータ）	52
VII	MA米（一般・SBS）の動向	
	（1）MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	53
	（2）加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成29年度）	54
	（3）SBS輸入米の見積合わせ結果（平成29年度）	54
VIII	その他	
	（1）水稻うるち玄米の農産物検査結果	55
	（2）平成29年産水稻の収穫量	56

# I 米の需給・契約・販売

## 1 米の基本指針（平成29年11月30日公表）

- 平成29年11月30日に公表しました「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」のポイントについて、ご紹介します。

### (1) 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針

- 今回の米政策の見直しを踏まえ、「第1 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」に以下の記載を追加。

平成30年産以降は、平成29年6月9日に閣議決定された「未来投資戦略2017」を踏まえ、行政による都道府県別の生産数量目標等の配分は行わないこととし、国が策定する米穀の需給の見通し等の情報を踏まえつつ、生産者や集荷業者・団体が中心となって円滑に需要に応じた生産に取り組む。

### (2) 平成29/30年の主食用米等の需給見通し

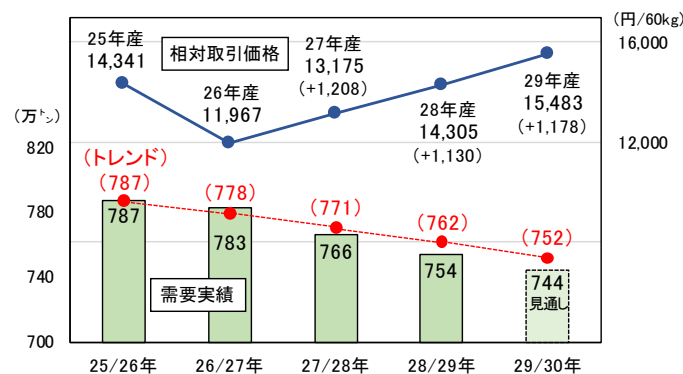
(単位: 万トン)

平成29年6月末民間在庫量	A	199 (確定値)
平成29年産主食用米等生産量	B	731 (10/15現在 予想収穫量)
平成29/30年主食用米等供給量計	C = A + B	930
平成29/30年主食用米等需要量	D	744
平成30年6月末民間在庫量	E = C - D	187

注：ラウンドの関係で内訳と計が一致しない場合がある。

相対取引価格が上昇傾向にあることから、需要量に及ぼす影響を踏まえ、トレンドにより算出した752万トンから8万トン低い744万トンと見通す。

(参考) 相対取引価格と需要実績の推移



### (3) 平成30/31年の主食用米等の需給見通し

平成8/9年から平成29/30年までの需要実績等を用いて、トレンドで算出した742万トンと見通す。

注：平成30/31年の価格の状況については、現時点で見通すことが困難であるため、価格の変動が生じた場合の需要量への影響は見込んでいない。

(単位: 万トン)

平成30年6月末民間在庫量	A	187
平成30年産主食用米等生産量	B	735
平成30/31年主食用米等供給量計	$C = A + B$	922
平成30/31年主食用米等需要量	D	742
平成31年6月末民間在庫量	$E = C - D$	180

平成30年産米の生産量は、平成31年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準（180万トン）となるものとして、735万トンと設定。  
 (735万トンは平成29年産米の生産数量目標と同水準)

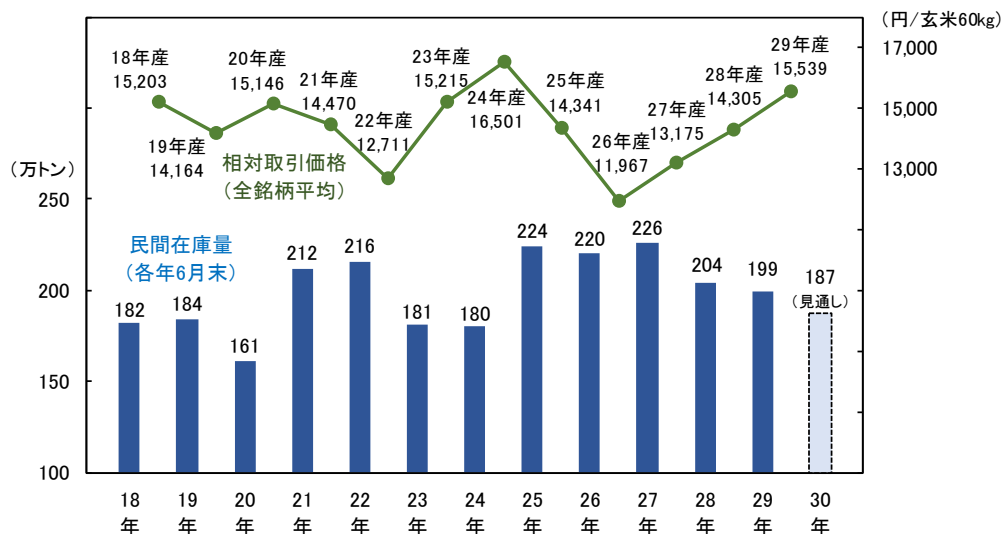
(参考) 6月末民間在庫量の推移

(単位: 万トン)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
在庫量	212	216	181	180	224	220	226	204	199

#### (参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量（生産、出荷、販売段階における在庫量）の水準もその要因の一つ。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月（28年産は29年8月、29年産は29年12月）までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。



## 2 米の契約・販売

### (1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

平成30年産

(単位：トン)

買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果	
		第1回 平成30年1月25日 実施	落札合計数量
北海道			
青森	11,006	338	338
岩手	3,686	0	0
宮城	5,011	10	10
秋田	17,353	490	490
山形	11,140	0	0
福島	12,350	108	108
茨城	469	0	0
栃木	4,888	1,779	1,779
群馬	12	0	0
埼玉	191	0	0
千葉	688	0	0
東京都			
神奈川県			
新潟	15,947	52	52
富山	7,001	7,001	7,001
石川	3,255	40	40
福井	2,106	10	10
山梨			
長野	514	0	0
岐阜	224	0	0
静岡	13	0	0
愛知	385	0	0
三重	272	0	0
滋賀	735	0	0
京都			
大阪			
兵庫			
奈良			
和歌山			
鳥取	345	0	0
島根	70	0	0
岡山	1,138	0	0
広島			
山口			
徳島	484	0	0
香川			
愛媛	40	0	0
高知	10	0	0
福岡	118	0	0
佐賀	211	0	0
長崎	22	0	0
熊本	212	0	0
大分	109	0	0
宮崎			
鹿児島			
沖縄			
都道府県別枠計	100,000	9,828	9,828
指定無し	100,000	5,687	5,687
合計	200,000	15,515	15,515

## (2) 平成29年産米の産地別契約・販売状況（累計・うるち米、平成29年12月末現在）

29年産米の「契約比率」及び「販売比率」（集荷数量に対する進捗状況）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

集荷・契約・販売数量（北海道から千葉まで）

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考：前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
<b>北海道</b>	<b>332.2</b>	<b>255.9</b>	<b>94.0</b>	<b>+ 0%</b>	<b>▲ 6%</b>	<b>▲ 17%</b>
ななつぼし	155.3	136.8	43.9	▲ 5%	+ 2%	▲ 23%
ゆめぴりか	84.5	52.1	21.7	+ 9%	▲ 15%	+ 4%
きらら397	35.6	27.2	4.2	+ 0%	▲ 6%	▲ 28%
<b>青森</b>	<b>128.0</b>	<b>89.1</b>	<b>22.5</b>	<b>▲ 7%</b>	<b>▲ 4%</b>	<b>▲ 14%</b>
まっしぐら	80.9	53.6	12.5	▲ 9%	▲ 4%	▲ 15%
つがるロマン	36.3	25.6	5.9	▲ 7%	▲ 9%	▲ 21%
<b>岩手</b>	<b>117.6</b>	<b>113.3</b>	<b>21.0</b>	<b>▲ 13%</b>	<b>+ 18%</b>	<b>+ 8%</b>
ひとめぼれ	91.4	90.0	16.8	▲ 17%	+ 21%	+ 20%
あきたこまち	15.0	13.7	1.2	▲ 12%	▲ 13%	▲ 61%
いわてっこ	2.5	2.0	0.2	▲ 25%	+ 3%	▲ 26%
<b>宮城</b>	<b>128.4</b>	<b>132.5</b>	<b>25.0</b>	<b>▲ 15%</b>	<b>▲ 5%</b>	<b>▲ 8%</b>
ひとめぼれ	101.4	113.0	17.1	▲ 17%	▲ 1%	▲ 14%
つや姫	11.1	8.2	4.0	▲ 5%	▲ 19%	+ 1%
ササニシキ	8.1	6.4	2.1	▲ 20%	▲ 19%	+ 6%
<b>秋田</b>	<b>211.9</b>	<b>129.9</b>	<b>52.9</b>	<b>▲ 10%</b>	<b>+ 4%</b>	<b>▲ 9%</b>
あきたこまち	170.7	110.4	46.8	▲ 10%	+ 2%	▲ 8%
めんこいな	8.3	2.9	1.4	▲ 20%	▲ 29%	▲ 37%
ひとめぼれ	20.0	12.4	2.4	▲ 16%	+ 84%	▲ 12%
<b>山形</b>	<b>179.5</b>	<b>122.9</b>	<b>33.2</b>	<b>▲ 7%</b>	<b>+ 61%</b>	<b>+ 10%</b>
はえぬき	105.6	68.6	13.8	▲ 9%	+ 63%	+ 5%
つや姫	35.5	29.0	10.3	▲ 3%	+ 69%	+ 28%
ひとめぼれ	17.1	11.6	4.7	▲ 12%	+ 25%	+ 18%
<b>福島</b>	<b>147.1</b>	<b>88.4</b>	<b>19.3</b>	<b>▲ 5%</b>	<b>+ 8%</b>	<b>+ 11%</b>
コシヒカリ中通り	48.2	27.0	8.7	▲ 10%	+ 74%	+ 43%
コシヒカリ会津	41.0	32.4	4.3	▲ 7%	▲ 4%	+ 0%
コシヒカリ浜通り	8.9	4.2	0.3	+ 29%	▲ 19%	▲ 20%
ひとめぼれ	27.5	15.3	3.2	▲ 11%	▲ 17%	▲ 6%
天のつぶ	11.0	4.6	1.0	+ 15%	+ 69%	▲ 25%
<b>茨城</b>	<b>61.7</b>	<b>45.9</b>	<b>21.4</b>	<b>▲ 7%</b>	<b>▲ 21%</b>	<b>+ 7%</b>
コシヒカリ	47.1	34.9	12.6	▲ 10%	▲ 23%	+ 4%
あきたこまち	8.6	7.9	7.5	+ 3%	▲ 16%	+ 17%
ゆめひたち	0.3	0.0	0.0	▲ 47%	▲ 81%	▲ 79%
<b>栃木</b>	<b>121.1</b>	<b>76.4</b>	<b>16.2</b>	<b>▲ 13%</b>	<b>▲ 17%</b>	<b>▲ 8%</b>
コシヒカリ	99.2	67.5	13.0	▲ 16%	▲ 17%	▲ 9%
あさひの夢	8.0	2.7	0.9	▲ 3%	▲ 45%	▲ 18%
なすひかり	7.3	2.8	1.2	+ 10%	+ 40%	+ 34%
<b>群馬</b>	<b>23.1</b>	<b>8.0</b>	<b>2.8</b>	<b>+ 25%</b>	<b>▲ 50%</b>	<b>+ 98%</b>
あさひの夢	15.4	6.1	1.8	+ 27%	▲ 46%	+ 225%
ゆめまつり	5.2	1.0	0.3	+ 27%	▲ 73%	+ 21%
<b>埼玉</b>	<b>20.0</b>	<b>14.9</b>	<b>3.5</b>	<b>▲ 2%</b>	<b>+ 24%</b>	<b>▲ 16%</b>
彩のかがやき	9.6	7.1	1.7	+ 1%	+ 9%	▲ 14%
コシヒカリ	6.2	5.2	1.3	▲ 9%	+ 41%	▲ 20%
彩のきずな	2.9	2.3	0.1	+ 17%	+ 72%	▲ 52%
<b>千葉</b>	<b>66.9</b>	<b>60.3</b>	<b>34.4</b>	<b>▲ 12%</b>	<b>▲ 6%</b>	<b>+ 8%</b>
コシヒカリ	34.2	29.9	15.8	▲ 20%	▲ 17%	▲ 3%
ふさごがね	13.1	13.2	6.5	▲ 3%	+ 10%	+ 35%
ふさおとめ	15.1	13.7	10.0	▲ 4%	+ 3%	+ 10%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるち米及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。

9 「参考：前年同月比」で、現時点において29年産又は28年産に数量がなかった場合は、「…」としている。

集荷・契約・販売数量(東京から鳥取まで)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考:前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
東京	-	-	-	---	---	---
神奈川	2.5	0.8	0.8	▲15%	+8%	+8%
山梨	6.1	1.4	1.4	▲2%	▲1%	▲1%
コシヒカリ	5.2	1.3	1.3	▲3%	+10%	+10%
あさひの夢	0.2	0.0	0.0	+1%	▲33%	▲33%
長野	67.6	49.0	13.4	▲5%	▲24%	+1%
コシヒカリ	53.3	38.5	9.3	▲6%	▲30%	▲1%
あきたこまち	7.8	5.2	1.8	▲5%	+12%	+6%
静岡	8.9	2.6	2.2	▲5%	+37%	+19%
コシヒカリ	5.9	2.0	1.7	▲4%	+46%	+22%
きぬむすめ	1.1	0.2	0.2	▲10%	▲16%	▲16%
あいちのかおり	1.0	0.2	0.2	+2%	+100%	+100%
新潟	248.9	208.0	72.6	▲12%	+2%	+8%
コシヒカリ一般	136.0	114.2	35.2	▲16%	+2%	+13%
コシヒカリ魚沼	29.0	22.6	9.4	+17%	+65%	+24%
コシヒカリ岩船	11.2	10.3	3.1	▲15%	▲4%	▲5%
コシヒカリ佐渡	13.5	12.2	4.0	▲14%	▲11%	▲10%
こしいぶき	36.2	28.5	11.4	▲15%	▲19%	▲1%
富山	89.7	63.6	24.9	▲17%	▲6%	+9%
コシヒカリ	72.6	53.9	19.9	▲18%	+3%	+10%
てんたかく	7.3	5.0	3.0	▲22%	▲23%	+4%
石川	25.0	24.5	3.5	▲24%	+10%	+13%
コシヒカリ	16.9	17.8	2.0	▲27%	+14%	▲11%
ゆめみづほ	4.9	4.1	0.3	▲27%	▲10%	▲25%
福井	66.2	49.7	23.8	+5%	▲20%	+27%
コシヒカリ	32.4	21.9	9.9	+6%	▲28%	+43%
ハナエチゼン	18.4	15.1	9.6	▲4%	▲20%	+11%
岐阜	21.7	19.1	7.0	▲20%	+16%	▲2%
ハツシモ	9.3	8.4	2.5	▲20%	+19%	+29%
コシヒカリ	6.6	5.7	2.0	▲22%	+35%	+9%
あきたこまち	2.0	1.6	1.1	▲5%	▲10%	▲22%
愛知	33.4	19.2	8.9	▲8%	▲35%	▲13%
あいちのかおり	17.5	8.7	3.2	▲2%	▲43%	▲17%
コシヒカリ	9.8	7.5	3.5	▲13%	▲24%	▲12%
大地の風	1.2	0.8	0.5	▲13%	▲22%	+28%
三重	27.4	20.7	9.5	▲13%	+7%	+19%
コシヒカリ一般	14.7	11.8	5.5	▲16%	+11%	+38%
コシヒカリ伊賀	6.6	4.3	1.8	▲5%	▲3%	▲7%
キヌヒカリ	2.1	1.2	0.5	▲21%	+33%	+38%
滋賀	50.9	60.8	20.8	▲13%	▲3%	+9%
コシヒカリ	19.7	23.4	8.8	▲12%	▲2%	+34%
キヌヒカリ	9.4	12.3	3.8	▲17%	▲3%	▲5%
日本晴	4.0	5.3	0.8	▲25%	▲17%	▲14%
京都	11.3	9.9	3.7	▲10%	+3%	+11%
コシヒカリ	6.9	6.2	2.2	▲11%	+4%	+10%
キヌヒカリ	2.5	2.7	1.0	▲10%	+9%	+27%
大阪	-	-	-	---	---	---
兵庫	44.5	32.3	12.6	▲1%	+53%	▲9%
コシヒカリ	13.6	9.9	3.8	▲5%	+160%	+14%
ヒノヒカリ	5.1	2.5	0.8	+7%	+133%	▲21%
キヌヒカリ	4.9	2.7	0.9	▲16%	+136%	▲12%
奈良	8.7	8.7	2.4	▲5%	▲5%	▲3%
ヒノヒカリ	6.8	6.8	1.5	▲6%	▲6%	▲15%
コシヒカリ	0.5	0.5	0.2	▲5%	▲5%	+26%
和歌山	1.5	1.8	0.4	▲25%	▲14%	+0%
鳥取	20.9	8.8	5.3	▲4%	▲9%	▲12%
コシヒカリ	7.7	2.8	1.8	+3%	▲10%	▲11%
きぬむすめ	7.3	2.7	1.4	+5%	+4%	+22%
ひとめぼれ	5.4	3.2	1.9	▲20%	▲16%	▲28%

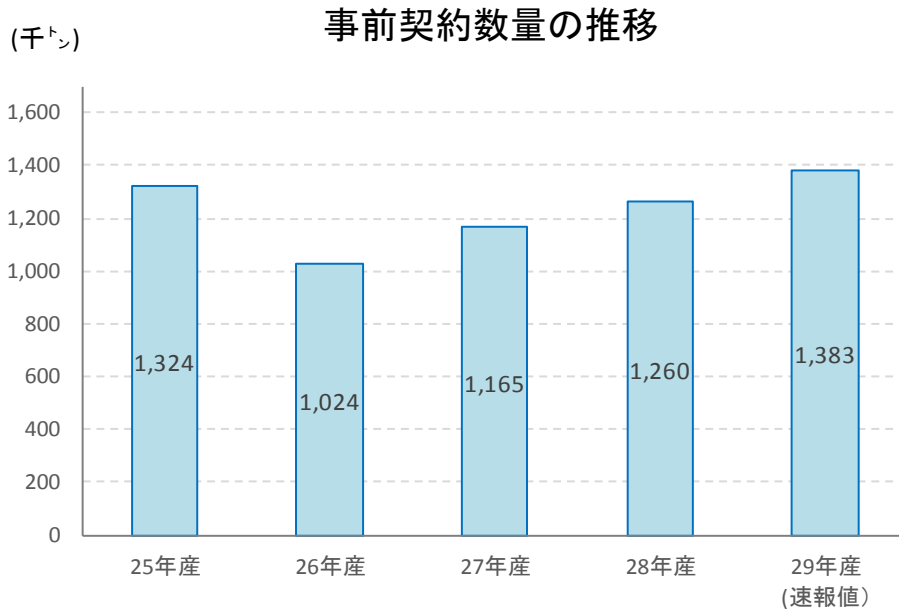
集荷・契約・販売数量(島根から沖縄まで、全国計)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考: 前年同月比 (28年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(%)	(%)	(%)
<b>島 根</b>	<b>37.4</b>	<b>35.3</b>	<b>10.3</b>	+ 1%	+ 9%	+ 0%
コシヒカリ	17.3	17.0	5.5	▲ 6%	+ 13%	+ 3%
きぬむすめ	13.1	11.6	2.3	+ 11%	+ 2%	▲ 4%
つや姫	4.2	3.9	1.2	+ 7%	+ 8%	▲ 1%
<b>岡 山</b>	<b>18.6</b>	<b>15.7</b>	<b>3.9</b>	+ 101%	+ 77%	+ 11%
アケボノ	4.9	3.9	0.5	+ 452%	+ 370%	+ 10%
あきたこまち	1.1	1.0	0.5	+ 31%	▲ 36%	▲ 14%
ヒノヒカリ	2.3	2.2	0.3	+ 102%	+ 331%	+ 72%
<b>広 島</b>	<b>34.1</b>	<b>30.9</b>	<b>8.9</b>	+ 3%	+ 3%	▲ 9%
コシヒカリ	15.1	14.1	3.7	▲ 4%	▲ 2%	▲ 4%
あきろまん	3.7	2.9	0.7	+ 16%	▲ 16%	▲ 29%
ヒノヒカリ	1.2	1.0	0.3	▲ 53%	▲ 52%	▲ 14%
<b>山 口</b>	<b>32.4</b>	<b>25.1</b>	<b>6.2</b>	+ 5%	+ 0%	▲ 2%
コシヒカリ	9.2	8.3	2.3	+ 3%	+ 2%	+ 1%
ひとめぼれ	7.8	5.6	1.8	▲ 4%	+ 0%	▲ 7%
ヒノヒカリ	6.8	5.7	1.0	+ 7%	▲ 1%	+ 3%
<b>徳 島</b>	<b>5.3</b>	<b>2.4</b>	<b>1.9</b>	▲ 12%	▲ 3%	▲ 9%
コシヒカリ	2.9	1.4	1.1	▲ 16%	▲ 13%	▲ 15%
キヌヒカリ	1.5	0.6	0.5	▲ 17%	+ 25%	+ 21%
<b>香 川</b>	<b>22.3</b>	<b>14.1</b>	<b>5.3</b>	▲ 12%	+ 9%	+ 6%
ヒノヒカリ	9.4	5.9	1.3	▲ 11%	+ 6%	▲ 17%
コシヒカリ	7.3	5.5	2.3	▲ 14%	+ 25%	+ 8%
<b>愛 媛</b>	<b>9.6</b>	<b>4.5</b>	<b>4.0</b>	▲ 13%	+ 26%	+ 17%
コシヒカリ	4.2	1.8	1.7	▲ 7%	+ 1%	▲ 1%
ヒノヒカリ	1.3	0.5	0.5	▲ 35%	+ 25%	+ 20%
あきたこまち	1.4	0.6	0.5	▲ 23%	+ 8%	+ 6%
<b>高 知</b>	<b>6.9</b>	<b>5.8</b>	<b>3.9</b>	+ 5%	+ 61%	+ 12%
コシヒカリ	5.7	4.6	2.8	+ 10%	+ 92%	+ 19%
ヒノヒカリ	0.2	0.2	0.2	▲ 36%	▲ 13%	▲ 9%
<b>福 岡</b>	<b>48.4</b>	<b>40.6</b>	<b>11.8</b>	+ 17%	+ 12%	+ 11%
夢つくし	14.9	12.4	4.7	+ 4%	+ 9%	+ 4%
ヒノヒカリ	13.6	12.3	3.1	+ 10%	+ 19%	+ 40%
元気つくし	16.9	15.1	3.6	+ 34%	+ 12%	+ 3%
<b>佐 賀</b>	<b>37.3</b>	<b>31.6</b>	<b>9.2</b>	▲ 3%	+ 3%	+ 4%
さがびより	9.6	11.2	1.9	▲ 2%	+ 5%	▲ 7%
夢しずく	12.4	8.8	3.5	▲ 1%	+ 2%	+ 24%
ヒノヒカリ	9.7	7.2	1.3	▲ 6%	+ 0%	▲ 6%
<b>長 崎</b>	<b>9.0</b>	<b>4.8</b>	<b>2.5</b>	▲ 4%	+ 88%	+ 13%
ヒノヒカリ	3.0	1.4	0.7	▲ 5%	+ 96%	+ 23%
にこまる	3.2	1.8	0.6	+ 3%	+ 134%	+ 7%
コシヒカリ	1.5	1.0	0.6	▲ 11%	+ 72%	+ 14%
<b>熊 本</b>	<b>30.3</b>	<b>21.1</b>	<b>9.6</b>	▲ 4%	▲ 13%	+ 10%
ヒノヒカリ	13.3	7.1	3.2	▲ 2%	▲ 34%	+ 1%
森のくまさん	4.1	4.8	1.0	▲ 24%	+ 10%	▲ 1%
コシヒカリ	6.4	5.4	3.3	+ 3%	+ 18%	+ 16%
<b>大 分</b>	<b>12.1</b>	<b>6.7</b>	<b>2.2</b>	▲ 7%	+ 36%	+ 13%
ヒノヒカリ	8.6	4.4	1.0	▲ 8%	+ 32%	+ 1%
ひとめぼれ	0.6	0.3	0.2	▲ 17%	+ 32%	+ 29%
<b>宮 崎</b>	<b>15.1</b>	<b>12.0</b>	<b>12.0</b>	+ 4%	▲ 18%	+ 7%
コシヒカリ	9.9	9.9	9.9	+ 6%	+ 6%	+ 6%
ヒノヒカリ	4.3	1.4	1.4	▲ 4%	▲ 69%	+ 6%
<b>鹿児島</b>	<b>10.8</b>	<b>10.8</b>	<b>8.2</b>	▲ 15%	▲ 15%	+ 11%
ヒノヒカリ	3.8	3.8	1.9	▲ 32%	▲ 32%	+ 6%
あきほなみ	1.0	1.0	0.4	▲ 45%	▲ 45%	▲ 7%
コシヒカリ	3.9	3.9	3.9	+ 15%	+ 15%	+ 15%
<b>沖 縄</b>	<b>1.5</b>	<b>1.5</b>	<b>1.4</b>	▲ 6%	▲ 6%	▲ 5%
<b>全 国 ①</b>	<b>2,635</b>	<b>2,008</b>	<b>688</b>	▲ 7%	+ 0%	+ 0%
参 考	前年同月(28年産)②	2,837	2,004	689		
	前年同月差(①-②)	▲ 202	4	▲ 1		

### (3) 産地別事前契約数量

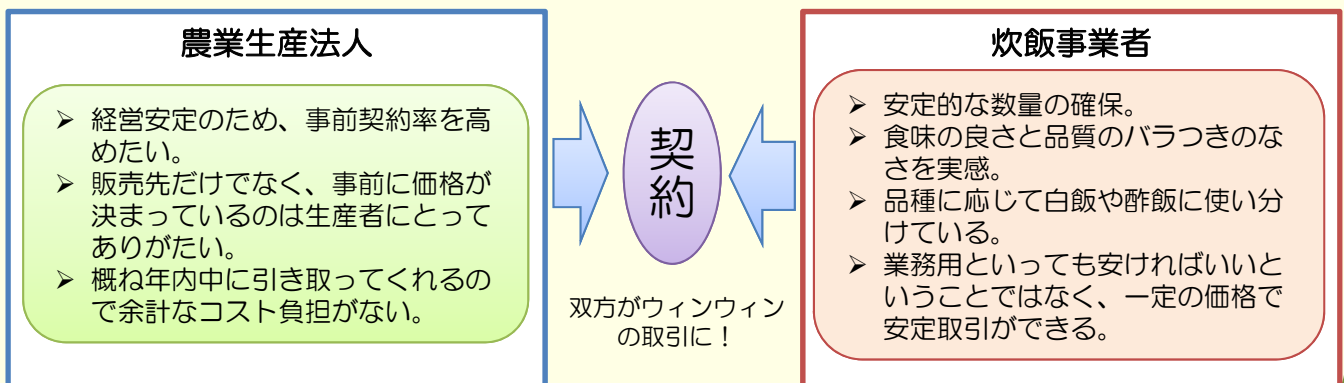
- 事前契約数量は、3年続けて増加、平成29年産米では、前年産に比べ12万トン多い138万トンという水準。

〔 事前契約数量とは、複数年契約、は種前契約、収穫前契約といった米の収穫時期の前にあらかじめ契約されたもの。 〕



### 生産法人と業務用実需者との事前契約の取組事例

- 平成24年産米の価格上昇により、中食・外食事業者においては、弁当や寿司業界等のニーズに応じた値頃感のある米の確保が困難となっていたところ。
- こうした中、A県の農業生産法人では、品質（食味）、価格条件等の実需者のニーズに応じて品種を作り分けることにより、生産量の約8割を事前契約や複数年契約で安定的な取引を実現。
- 例えば、当該農業生産法人は、炊飯事業者との取引において、希望のあった品種を一定の数量、価格で事前契約を行っており、翌年産米の取引では、前年の10倍の数量契約を締結し、安定した品質の米を納入。現在まで契約数量の全てが納入済といった状況。価格は、生産コストや流通コスト等を踏まえた再生産可能な価格を基本に実需者と協議して決定。



## 産地別事前契約及び複数年契約の状況

29年産米の「事前契約比率」（集荷数量に対する事前契約数量の比率）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

（単位：千玄米<sup>ト</sup>）

産地	平成28年産					平成29年産（平成29年12月末現在）	
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 〔平成29年12月末時点〕	事前契約数量
北海道	358.7	169.6	47%	43.4	12%	332.2	183.1
青森	140.6	45.1	32%	32.9	23%	128.0	55.2
岩手	140.0	91.1	65%	84.7	61%	117.6	93.0
宮城	181.0	112.0	62%	84.5	47%	128.4	124.2
秋田	271.2	83.2	31%	57.4	21%	211.9	90.5
山形	221.2	52.3	24%	1.5	1%	179.5	70.9
福島	169.9	52.8	31%	27.0	16%	147.1	47.6
茨城	77.7	27.6	36%	-	-	61.7	24.5
栃木	141.6	60.3	43%	49.5	35%	121.1	66.3
群馬	21.9	-	-	-	-	23.1	0.1
埼玉	22.3	8.2	37%	-	-	20.0	8.2
千葉	79.7	34.0	43%	2.2	3%	66.9	27.6
東京	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.9	-	-	-	-	2.5	-
山梨	6.3	-	-	-	-	6.1	-
長野	72.5	26.3	36%	23.7	33%	67.6	27.4
静岡	7.2	-	-	-	-	8.9	2.5
新潟	285.2	141.3	50%	87.4	31%	248.9	166.2
富山	111.6	43.7	39%	-	-	89.7	46.1
石川	33.9	20.1	59%	1.6	5%	25.0	23.9
福井	65.2	6.8	10%	6.8	10%	66.2	6.8
岐阜	27.5	12.0	44%	-	-	21.7	15.1
愛知	37.3	15.1	40%	-	-	33.4	14.5
三重	31.9	17.7	56%	-	-	27.4	19.5
滋賀	65.6	46.8	71%	36.0	55%	50.9	49.0
京都	14.4	8.0	55%	0.3	2%	11.3	8.0
大阪	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	41.0	-	-	-	-	44.5	10.0
奈良	9.2	-	-	-	-	8.7	-
和歌山	2.1	1.7	83%	-	-	1.5	1.8
鳥取	22.2	6.0	27%	-	-	20.9	5.4
島根	39.4	31.9	81%	0.8	2%	37.4	35.0
岡山	15.0	-	-	-	-	18.6	-
広島	33.7	26.6	79%	2.0	6%	34.1	27.3
山口	32.0	24.3	76%	0.6	2%	32.4	24.4
徳島	6.1	-	-	-	-	5.3	0.9
香川	26.7	12.9	48%	-	-	22.3	14.1
愛媛	12.6	-	-	-	-	9.6	0.9
高知	6.5	1.1	18%	-	-	6.9	2.1
福岡	55.7	30.3	54%	-	-	48.4	32.3
佐賀	43.8	25.2	58%	-	-	37.3	26.4
長崎	11.7	-	-	-	-	9.0	4.0
熊本	38.3	16.0	42%	-	-	30.3	15.3
大分	14.6	1.4	10%	-	-	12.1	4.9
宮崎	16.3	8.4	51%	-	-	15.1	8.6
鹿児島	14.9	-	-	-	-	10.8	-
沖縄	1.6	-	-	-	-	1.5	-
全国	3,076	1,260	41%	542	18%	2,635	1,383

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

5 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

6 「-」は、集荷数量や事前契約等に該当がないもの。

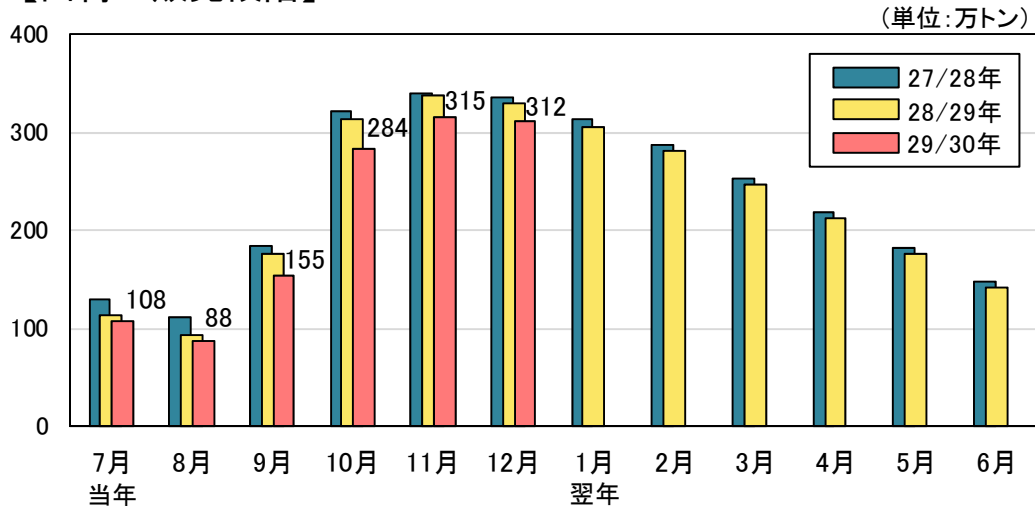
## Ⅱ 米の在庫情報

### (1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 平成29年12月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月▲17万トンの312万トンとなっている。

※ 都道府県別在庫量は、12頁以降参照。

#### 【出荷＋販売段階】



(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
23年産米	0	8	106	273	304	300	275	246	214	177	141	108
1年古米(22年産)	69	37	19	13	11	8	6	5	2	2	1	1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155	284	315	312						
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲17						
29年産米	1	15	104	241	282	288						
1年古米(28年産)	103	71	48	39	29	21						

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 期間については、29/30年であれば、29年7月～30年6月である。  
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。  
 6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。  
 7 米穀機種の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

## 【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
23年産米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
1年古米(22年産)	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲12	▲17	▲11	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	108	239	268	265	252	230	197	167	139	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	84	66	124	231	262	258						
対前年差	▲4	▲4	▲21	▲30	▲23	▲18						
29年産米	0	11	89	211	247	249						
1年古米(28年産)	83	54	34	19	13	9						

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

## 【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1
23年産米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
1年古米(22年産)	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	29
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	31	52	54	54						
対前年差	▲2	▲1	▲1	±0	±0	+1						
29年産米	0	4	15	30	35	39						
1年古米(28年産)	20	16	13	20	16	12						

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照



## (2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成29年産（29年12月末）

【出荷＋販売段階】

（単位：千トン）

産地	29年産 (H29.12末)	28年産 (H28.12末)	前年 同月比	産地	29年産 (H29.12末)	28年産 (H28.12末)	前年 同月比
北海道	328.3	301.6	109%	滋賀	48.3	64.1	75%
青森	143.5	142.2	101%	京都	12.8	7.8	163%
岩手	115.2	130.8	88%	大阪	2.3	2.5	93%
宮城	145.3	160.8	90%	兵庫	45.5	47.4	96%
秋田	228.3	230.6	99%	奈良	7.5	7.6	100%
山形	187.2	201.4	93%	和歌山	1.8	2.1	89%
福島	184.0	191.1	96%	鳥取	28.3	26.2	108%
茨城	111.0	107.5	103%	島根	29.3	28.9	101%
栃木	136.5	148.5	92%	岡山	51.9	38.5	135%
群馬	29.1	25.0	116%	広島	35.9	35.5	101%
埼玉	30.7	27.9	110%	山口	30.9	28.0	110%
千葉	88.3	92.4	96%	徳島	10.9	9.7	112%
東京	0.0	0.0	-	香川	18.0	21.2	85%
神奈川	2.0	2.4	81%	愛媛	12.3	12.2	101%
新潟	238.8	279.4	85%	高知	9.3	9.2	102%
富山	80.9	100.3	81%	福岡	65.7	55.6	118%
石川	52.8	61.4	86%	佐賀	32.1	32.6	98%
福井	60.2	59.7	101%	長崎	8.5	10.2	83%
山梨	5.3	5.3	99%	熊本	39.3	44.2	89%
長野	67.6	70.5	96%	大分	18.7	19.3	97%
岐阜	18.2	23.4	78%	宮崎	13.1	14.1	93%
静岡	15.6	17.8	88%	鹿児島	15.7	18.4	86%
愛知	35.4	36.1	98%	沖縄	0.1	0.2	69%
三重	32.7	41.2	79%	全国計	2,876	2,994	96%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

### (3) 平成28・29年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

（北海道から秋田）

（単位：千玄米トン）

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
北海道	出荷＋販売段階	96.9	66.1	95.1	287.7	357.3	343.7							
	29年産米			54.1	256.8	334.6	328.3							
	1年古米(28年産)	95.3	64.9	40.2	30.4	22.4	15.1							
	出荷段階	70.6	45.9	72.6	221.9	290.1	272.3							
	29年産米			45.9	206.6	280.0	266.3							
	1年古米(28年産)	70.3	45.7	26.7	15.3	10.1	6.0							
	販売段階	26.3	20.2	22.4	65.8	67.2	71.4							
	29年産米			8.2	50.2	54.6	62.0							
	1年古米(28年産)	25.0	19.2	13.5	15.2	12.3	9.1							
	青森	出荷＋販売段階	58.3	44.5	44.9	126.2	146.0	155.6						
		29年産米			13.1	102.6	129.2	143.5						
		1年古米(28年産)	57.0	43.5	31.0	22.9	16.3	11.7						
出荷段階		45.1	32.6	33.9	103.8	121.9	131.8							
29年産米				12.8	93.7	116.5	128.2							
1年古米(28年産)		45.0	32.6	21.0	10.1	5.4	3.6							
販売段階		13.2	11.9	11.0	22.4	24.1	23.7							
29年産米				0.2	8.9	12.8	15.3							
1年古米(28年産)		12.0	10.9	9.9	12.9	10.8	8.1							
岩手		出荷＋販売段階	51.3	36.8	25.6	97.0	119.6	127.7						
		29年産米			1.2	71.5	99.9	115.2						
		1年古米(28年産)	50.2	36.0	23.8	25.0	19.4	12.2						
	出荷段階	44.5	30.6	20.2	78.8	100.6	109.8							
	29年産米			0.9	66.4	91.6	104.5							
	1年古米(28年産)	44.3	30.5	19.1	12.3	9.0	5.4							
	販売段階	6.7	6.2	5.4	18.2	19.0	17.8							
	29年産米			0.2	5.1	8.2	10.7							
	1年古米(28年産)	6.0	5.5	4.7	12.7	10.4	6.9							
	宮城	出荷＋販売段階	80.2	58.9	54.8	150.3	153.0	160.5						
		29年産米			15.2	117.1	130.3	145.3						
		1年古米(28年産)	78.8	57.7	38.7	32.6	22.4	14.8						
出荷段階		69.4	49.3	46.2	129.5	130.2	136.6							
29年産米				14.4	109.4	118.1	129.5							
1年古米(28年産)		69.1	49.0	31.7	20.0	12.2	7.1							
販売段階		10.7	9.6	8.6	20.7	22.8	23.9							
29年産米				0.8	7.7	12.2	15.8							
1年古米(28年産)		9.7	8.7	7.0	12.5	10.2	7.8							
秋田		出荷＋販売段階	73.7	46.1	63.7	237.6	248.2	243.4						
		29年産米			38.8	216.8	230.5	228.3						
		1年古米(28年産)	69.4	42.9	22.6	19.0	16.4	13.9						
	出荷段階	57.4	34.0	52.0	215.4	223.5	213.5							
	29年産米			36.0	205.6	215.6	207.4							
	1年古米(28年産)	55.2	32.4	14.8	8.8	7.1	5.6							
	販売段階	16.3	12.1	11.7	22.2	24.7	29.8							
	29年産米			2.8	11.2	14.9	20.9							
	1年古米(28年産)	14.3	10.6	7.8	10.2	9.2	8.4							

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単－農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、28年産米と1年古米（27年産）の合計と一致しない場合がある。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	82.4	63.1	60.0	174.1	198.4	208.9						
	29年産米			12.0	141.0	172.7	187.2						
	1年古米(28年産)	79.1	60.6	45.8	31.5	24.7	21.0						
	出荷段階	71.4	52.1	49.5	155.8	178.5	185.0						
	29年産米			11.8	134.0	162.5	173.7						
	1年古米(28年産)	70.4	51.4	37.0	21.2	15.8	11.1						
	販売段階	10.9	11.0	10.5	18.3	19.9	23.9						
	29年産米			0.3	7.0	10.2	13.5						
	1年古米(28年産)	8.7	9.2	8.8	10.3	9.0	10.0						
福島	出荷+販売段階	82.4	57.3	47.2	179.0	209.2	205.0						
	29年産米			7.3	130.7	172.1	184.0						
	1年古米(28年産)	80.7	56.0	39.0	47.7	36.6	20.6						
	出荷段階	65.2	43.1	35.7	139.0	165.2	166.2						
	29年産米			6.6	117.3	149.5	158.3						
	1年古米(28年産)	64.7	42.7	28.8	21.6	15.7	7.9						
	販売段階	17.2	14.2	11.6	40.1	43.9	38.8						
	29年産米			0.7	13.5	22.6	25.8						
	1年古米(28年産)	16.0	13.3	10.2	26.1	20.9	12.7						
茨城	出荷+販売段階	29.0	36.7	115.6	129.0	122.1	115.7						
	29年産米		20.8	105.2	121.7	116.4	111.0						
	1年古米(28年産)	28.7	15.6	10.2	7.2	5.5	4.5						
	出荷段階	16.2	20.2	76.4	86.3	82.4	78.3						
	29年産米		13.4	73.8	84.7	81.0	77.2						
	1年古米(28年産)	16.1	6.8	2.6	1.6	1.3	1.1						
	販売段階	12.9	16.5	39.3	42.7	39.7	37.4						
	29年産米		7.4	31.4	37.0	35.4	33.8						
	1年古米(28年産)	12.6	8.8	7.7	5.6	4.2	3.4						
栃木	出荷+販売段階	66.1	48.0	104.6	142.1	151.7	150.6						
	29年産米			70.1	107.9	129.8	136.5						
	1年古米(28年産)	61.8	45.0	32.6	33.2	21.3	13.7						
	出荷段階	49.7	34.9	88.1	109.5	123.2	124.6						
	29年産米			63.8	95.6	115.2	119.7						
	1年古米(28年産)	48.2	34.0	23.7	13.7	7.9	4.9						
	販売段階	16.4	13.1	16.5	32.6	28.5	26.0						
	29年産米			6.2	12.4	14.5	16.8						
	1年古米(28年産)	13.5	11.0	8.8	19.4	13.4	8.8						
群馬	出荷+販売段階	8.7	5.9	4.3	5.3	17.1	30.0						
	29年産米			0.6	3.4	15.8	29.1						
	1年古米(28年産)	8.3	5.7	3.7	1.9	1.3	0.8						
	出荷段階	6.5	3.9	2.7	3.3	14.3	27.0						
	29年産米			0.5	3.1	14.2	27.0						
	1年古米(28年産)	6.5	3.9	2.2	0.2	0.1							
	販売段階	2.2	2.0	1.6	2.0	2.8	3.0						
	29年産米			0.1	0.3	1.6	2.1						
	1年古米(28年産)	1.8	1.8	1.5	1.7	1.2	0.8						
埼玉	出荷+販売段階	13.0	10.7	18.3	26.7	32.0	33.6						
	29年産米		1.1	8.6	20.4	27.9	30.7						
	1年古米(28年産)	12.9	9.5	9.7	6.2	4.1	3.0						
	出荷段階	8.5	6.6	11.0	19.5	24.0	25.8						
	29年産米		0.7	7.1	17.0	22.4	24.7						
	1年古米(28年産)	8.5	5.9	4.0	2.5	1.6	1.1						
	販売段階	4.5	4.1	7.3	7.1	8.1	7.8						
	29年産米		0.4	1.6	3.4	5.6	5.9						
	1年古米(28年産)	4.4	3.6	5.7	3.7	2.5	1.9						

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	16.5	60.3	116.6	108.8	99.8	90.0						
	29年産米		52.5	111.6	105.5	97.3	88.3						
	1年古米(28年産)	16.4	7.7	5.0	3.3	2.5	1.7						
	出荷段階	10.6	48.9	94.7	86.8	79.8	67.8						
	29年産米		46.5	93.7	86.1	79.4	67.6						
	1年古米(28年産)	10.6	2.4	1.1	0.7	0.5	0.3						
	販売段階	5.9	11.4	21.9	22.0	20.0	22.2						
	29年産米		6.0	17.9	19.4	17.9	20.7						
	1年古米(28年産)	5.8	5.3	3.9	2.6	2.0	1.5						
東京	出荷+販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	出荷段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
神奈川	出荷+販売段階	0.5	0.4	0.6	2.2	2.4	2.0						
	29年産米			0.3	2.2	2.3	2.0						
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3	0.1								
	出荷段階	0.5	0.4	0.6	2.2	2.3	1.9						
	29年産米			0.3	2.2	2.3	1.9						
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3									
	販売段階				0.1		0.1						
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
山梨	出荷+販売段階	1.7	1.0	1.6	3.8	4.2	5.4						
	29年産米			1.1	3.5	4.0	5.3						
	1年古米(28年産)	1.7	1.0	0.5	0.2	0.2	0.1						
	出荷段階	1.4	0.8	1.4	3.4	3.6	4.7						
	29年産米			1.1	3.3	3.5	4.7						
	1年古米(28年産)	1.3	0.8	0.3	0.1	0.1	0.1						
	販売段階	0.4	0.3	0.2	0.4	0.6	0.7						
	29年産米				0.3	0.5	0.6						
	1年古米(28年産)	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1						
長野	出荷+販売段階	24.8	17.8	28.7	60.9	77.0	72.0						
	29年産米			16.8	50.5	69.9	67.6						
	1年古米(28年産)	24.7	17.8	11.9	10.4	7.1	4.4						
	出荷段階	21.6	15.0	26.0	54.2	69.9	63.6						
	29年産米			16.2	48.0	65.8	61.8						
	1年古米(28年産)	21.6	15.0	9.8	6.2	4.1	1.9						
	販売段階	3.3	2.9	2.7	6.6	7.1	8.3						
	29年産米			0.7	2.4	4.1	5.8						
	1年古米(28年産)	3.1	2.8	2.0	4.2	3.1	2.5						
静岡	出荷+販売段階	2.9	6.0	15.2	16.9	17.5	15.9						
	29年産米		4.3	14.2	16.5	17.2	15.6						
	1年古米(28年産)	2.8	1.6	0.9	0.3	0.3	0.2						
	出荷段階	2.1	3.9	9.9	11.3	12.5	11.5						
	29年産米		2.5	9.2	11.3	12.5	11.5						
	1年古米(28年産)	2.1	1.3	0.7									
	販売段階	0.8	2.1	5.4	5.6	5.1	4.3						
	29年産米		1.7	5.1	5.2	4.7	4.1						
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2						

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	93.9	60.8	200.2	306.6	297.9	265.7						
	29年産米		0.1	160.1	268.5	265.1	238.8						
	1年古米(28年産)	89.4	58.5	39.2	37.6	32.3	26.4						
	出荷段階	80.0	50.8	184.3	276.5	269.5	238.0						
	29年産米		0.1	150.1	251.5	248.0	220.6						
	1年古米(28年産)	77.6	49.5	33.6	24.6	21.1	17.1						
	販売段階	13.9	10.0	15.9	30.2	28.4	27.6						
	29年産米			10.0	16.9	17.0	18.3						
	1年古米(28年産)	11.8	9.0	5.5	13.0	11.2	9.3						
富山	出荷+販売段階	31.5	20.2	72.8	94.4	93.9	84.9						
	29年産米		0.6	59.5	87.3	88.5	80.9						
	1年古米(28年産)	31.3	19.5	13.2	7.1	5.3	3.9						
	出荷段階	25.2	15.1	65.9	82.7	83.3	74.6						
	29年産米		0.3	55.8	82.0	82.9	74.4						
	1年古米(28年産)	25.2	14.8	10.1	0.7	0.4	0.1						
	販売段階	6.3	5.0	6.8	11.7	10.6	10.3						
	29年産米		0.3	3.7	5.3	5.6	6.5						
	1年古米(28年産)	6.1	4.6	3.1	6.4	4.9	3.8						
石川	出荷+販売段階	17.7	12.1	54.2	64.5	59.9	55.4						
	29年産米		1.2	46.8	58.6	55.5	52.8						
	1年古米(28年産)	17.5	10.8	7.3	5.8	4.3	2.6						
	出荷段階	14.2	8.9	34.5	42.6	40.0	37.7						
	29年産米		0.4	28.6	38.7	37.2	36.2						
	1年古米(28年産)	14.1	8.5	5.8	3.9	2.8	1.4						
	販売段階	3.5	3.1	19.7	21.9	20.0	17.8						
	29年産米		0.8	18.2	20.0	18.4	16.6						
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.5	1.9	1.6	1.1						
福井	出荷+販売段階	15.8	15.8	50.2	76.2	69.5	62.6						
	29年産米		4.9	42.8	70.1	65.4	60.2						
	1年古米(28年産)	15.8	10.9	7.4	6.1	4.1	2.4						
	出荷段階	12.7	11.1	41.7	59.9	55.8	49.2						
	29年産米		2.4	35.9	57.6	54.1	48.2						
	1年古米(28年産)	12.7	8.7	5.8	2.3	1.7	1.0						
	販売段階	3.1	4.7	8.5	16.3	13.7	13.4						
	29年産米		2.5	6.8	12.5	11.3	12.0						
	1年古米(28年産)	3.1	2.2	1.6	3.7	2.4	1.4						
岐阜	出荷+販売段階	12.0	10.5	10.9	13.3	20.8	21.1						
	29年産米		1.6	4.1	8.4	16.8	18.2						
	1年古米(28年産)	10.9	8.1	6.1	4.3	3.4	2.4						
	出荷段階	9.0	7.8	8.0	9.1	16.0	16.3						
	29年産米		1.3	3.4	6.6	14.0	14.9						
	1年古米(28年産)	8.9	6.5	4.5	2.4	2.0	1.4						
	販売段階	3.0	2.7	3.0	4.2	4.8	4.7						
	29年産米		0.3	0.7	1.8	2.9	3.2						
	1年古米(28年産)	2.0	1.6	1.6	1.8	1.4	1.0						
愛知	出荷+販売段階	12.8	11.9	14.3	22.6	34.0	36.8						
	29年産米		2.3	8.9	20.6	32.0	35.4						
	1年古米(28年産)	12.4	9.4	5.3	2.0	2.0	1.3						
	出荷段階	10.8	9.6	11.3	18.5	27.9	29.4						
	29年産米		1.6	7.2	17.2	26.8	28.9						
	1年古米(28年産)	10.8	8.0	4.1	1.3	1.0	0.5						
	販売段階	2.0	2.2	2.9	4.2	6.2	7.3						
	29年産米		0.7	1.7	3.4	5.2	6.5						
	1年古米(28年産)	1.6	1.4	1.2	0.7	0.9	0.8						

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三重	出荷+販売段階	7.5	16.9	40.1	41.2	38.6	34.9						
	29年産米		12.7	37.1	38.7	36.2	32.7						
	1年古米(28年産)	7.0	4.0	3.0	2.5	2.3	2.1						
	出荷段階	5.5	13.4	35.3	36.8	34.4	30.4						
	29年産米		10.4	33.3	35.2	32.9	29.0						
	1年古米(28年産)	5.2	2.7	2.0	1.7	1.5	1.4						
	販売段階	2.0	3.6	4.7	4.4	4.1	4.5						
	29年産米		2.2	3.8	3.5	3.3	3.7						
	1年古米(28年産)	1.8	1.2	0.9	0.8	0.8	0.8						
滋賀	出荷+販売段階	15.1	13.3	52.0	56.1	56.5	51.8						
	29年産米		3.7	45.1	50.7	52.1	48.3						
	1年古米(28年産)	14.7	9.3	6.6	5.2	4.4	3.5						
	出荷段階	12.3	10.0	45.9	50.0	50.3	44.6						
	29年産米		3.3	42.3	47.1	47.8	42.7						
	1年古米(28年産)	11.9	6.5	3.5	2.8	2.4	1.9						
	販売段階	2.9	3.2	6.0	6.1	6.2	7.1						
	29年産米		0.4	2.9	3.6	4.3	5.6						
	1年古米(28年産)	2.8	2.8	3.1	2.4	1.9	1.5						
京都	出荷+販売段階	5.3	3.6	10.2	12.2	12.8	13.6						
	29年産米		0.1	8.0	11.2	11.8	12.8						
	1年古米(28年産)	5.2	3.6	2.2	1.0	1.0	0.8						
	出荷段階	4.0	2.8	8.8	9.9	10.3	11.0						
	29年産米		0.1	7.3	9.8	10.2	10.9						
	1年古米(28年産)	4.0	2.7	1.5	0.1	0.1	0.1						
	販売段階	1.3	0.9	1.4	2.3	2.5	2.6						
	29年産米			0.7	1.4	1.6	1.9						
	1年古米(28年産)	1.3	0.9	0.7	0.9	0.9	0.7						
大阪	出荷+販売段階	0.9	0.6	0.8	1.2	1.2	2.5						
	29年産米			0.4	0.9	0.9	2.3						
	1年古米(28年産)	0.9	0.6	0.4	0.3	0.3	0.2						
	出荷段階	0.7	0.5	0.6	0.9	1.0	2.1						
	29年産米			0.4	0.8	0.9	2.1						
	1年古米(28年産)	0.7	0.5	0.2	0.1	0.1							
	販売段階	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.4						
	29年産米					0.1	0.3						
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2						
兵庫	出荷+販売段階	15.7	11.0	25.9	29.3	49.7	47.0						
	29年産米			18.8	26.9	47.8	45.5						
	1年古米(28年産)	15.4	10.6	6.9	2.2	1.7	1.2						
	出荷段階	13.2	8.9	23.4	24.8	44.8	42.7						
	29年産米			17.7	24.5	44.6	42.6						
	1年古米(28年産)	13.2	8.9	5.7	0.3	0.2	0.1						
	販売段階	2.5	2.0	2.6	4.4	4.9	4.3						
	29年産米			1.1	2.3	3.2	2.9						
	1年古米(28年産)	2.1	1.7	1.2	1.8	1.5	1.2						
奈良	出荷+販売段階	2.2	1.5	1.6	4.6	8.6	7.8						
	29年産米			0.7	4.2	8.2	7.5						
	1年古米(28年産)	2.1	1.4	0.8	0.4	0.3	0.3						
	出荷段階	0.5	0.3	0.8	3.4	7.0	6.3						
	29年産米			0.7	3.4	7.0	6.3						
	1年古米(28年産)	0.5	0.3	0.1									
	販売段階	1.7	1.2	0.8	1.2	1.6	1.5						
	29年産米			0.1	0.7	1.2	1.2						
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.7	0.4	0.3	0.3						

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.8	0.5	0.9	1.7	1.7	2.0						
	29年産米			0.5	1.5	1.6	1.8						
	1年古米(28年産)	0.8	0.5	0.4	0.2	0.2	0.1						
	出荷段階	0.6	0.4	0.5	1.4	1.3	1.1						
	29年産米			0.5	1.4	1.3	1.1						
	1年古米(28年産)	0.6	0.4										
	販売段階	0.3	0.1	0.4	0.4	0.4	0.9						
	29年産米				0.1	0.2	0.7						
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.4	0.2	0.2	0.1						
鳥取	出荷+販売段階	7.2	4.6	9.5	21.0	21.9	29.5						
	29年産米			6.6	18.7	20.2	28.3						
	1年古米(28年産)	7.2	4.5	2.8	2.2	1.7	1.2						
	出荷段階	5.2	3.0	7.8	18.1	19.1	26.7						
	29年産米			6.0	17.1	18.3	26.1						
	1年古米(28年産)	5.2	3.0	1.8	1.1	0.8	0.5						
	販売段階	2.0	1.6	1.7	2.9	2.9	2.9						
	29年産米			0.6	1.7	1.9	2.2						
	1年古米(28年産)	1.9	1.5	1.0	1.2	0.9	0.7						
島根	出荷+販売段階	8.3	6.3	28.0	33.6	33.4	30.1						
	29年産米		1.0	24.3	31.6	32.0	29.3						
	1年古米(28年産)	8.2	5.2	3.7	1.9	1.3	0.7						
	出荷段階	6.7	4.7	25.6	30.0	30.1	27.3						
	29年産米		0.8	23.0	29.7	29.8	27.1						
	1年古米(28年産)	6.7	3.8	2.5	0.3	0.3	0.2						
	販売段階	1.6	1.6	2.5	3.6	3.3	2.7						
	29年産米		0.1	1.3	2.0	2.2	2.2						
	1年古米(28年産)	1.5	1.4	1.2	1.6	1.0	0.5						
岡山	出荷+販売段階	14.9	10.2	15.9	23.2	40.2	53.2						
	29年産米			8.9	19.4	37.8	51.9						
	1年古米(28年産)	14.8	10.1	6.9	3.7	2.3	1.3						
	出荷段階	11.4	7.5	11.3	17.3	32.7	45.2						
	29年産米			7.5	16.6	32.3	45.1						
	1年古米(28年産)	11.4	7.4	3.9	0.7	0.4	0.1						
	販売段階	3.5	2.7	4.5	5.8	7.5	8.0						
	29年産米			1.5	2.8	5.5	6.8						
	1年古米(28年産)	3.4	2.6	3.0	3.0	1.9	1.2						
広島	出荷+販売段階	10.4	6.9	23.2	38.6	40.3	36.8						
	29年産米		0.3	19.5	36.5	38.8	35.9						
	1年古米(28年産)	10.3	6.4	3.5	2.0	1.4	0.8						
	出荷段階	7.5	4.8	19.6	33.4	35.0	31.7						
	29年産米		0.2	17.8	33.0	34.8	31.7						
	1年古米(28年産)	7.5	4.6	1.8	0.3	0.2							
	販売段階	3.0	2.1	3.7	5.2	5.3	5.0						
	29年産米			1.8	3.5	4.0	4.1						
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.7	1.6	1.2	0.8						
山口	出荷+販売段階	11.5	8.8	20.0	30.9	34.2	33.6						
	29年産米		0.5	14.1	26.8	30.8	30.9						
	1年古米(28年産)	11.1	8.0	5.8	4.0	3.3	2.7						
	出荷段階	10.0	7.4	18.6	26.0	29.8	29.3						
	29年産米		0.4	13.6	26.0	29.8	29.2						
	1年古米(28年産)	10.0	7.0	4.9									
	販売段階	1.5	1.4	1.5	4.8	4.4	4.4						
	29年産米		0.1	0.4	0.8	1.1	1.7						
	1年古米(28年産)	1.1	1.0	0.8	4.0	3.2	2.7						

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.3	10.8	14.2	13.7	12.5	11.5						
	29年産米		9.4	13.1	12.8	11.7	10.9						
	1年古米(28年産)	2.1	1.2	0.9	0.7	0.6	0.5						
	出荷段階	0.7	7.9	10.6	9.8	8.6	8.0						
	29年産米		7.6	10.3	9.8	8.6	8.0						
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.3									
	販売段階	1.6	2.9	3.6	3.9	3.9	3.5						
	29年産米		1.8	2.8	3.0	3.2	2.9						
	1年古米(28年産)	1.4	0.9	0.6	0.7	0.6	0.5						
香川	出荷+販売段階	7.5	6.0	6.6	13.0	19.4	18.7						
	29年産米		0.7	3.2	11.4	18.5	18.0						
	1年古米(28年産)	7.3	5.2	3.3	1.5	0.9	0.7						
	出荷段階	6.4	5.1	5.4	11.6	17.4	17.0						
	29年産米		0.6	3.1	11.0	17.4	17.0						
	1年古米(28年産)	6.4	4.5	2.3	0.6								
	販売段階	1.1	0.9	1.2	1.3	2.0	1.8						
	29年産米		0.1	0.2	0.4	1.1	1.0						
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	1.0	0.9	0.9	0.7						
愛媛	出荷+販売段階	4.2	5.3	7.9	12.5	15.1	13.5						
	29年産米		2.4	5.8	10.9	13.7	12.3						
	1年古米(28年産)	3.9	2.8	2.0	1.5	1.3	1.1						
	出荷段階	3.8	5.0	7.5	12.0	14.6	12.9						
	29年産米		2.3	5.6	10.5	13.3	11.9						
	1年古米(28年産)	3.5	2.5	1.7	1.3	1.2	0.9						
	販売段階	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5						
	29年産米		0.1	0.2	0.3	0.4	0.4						
	1年古米(28年産)	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1						
高知	出荷+販売段階	3.7	11.7	10.7	12.5	11.9	10.7						
	29年産米	0.4	9.2	8.7	10.7	10.3	9.3						
	1年古米(28年産)	3.1	2.4	1.9	1.6	1.5	1.2						
	出荷段階	1.1	6.6	5.9	6.8	6.3	5.9						
	29年産米	0.1	5.8	5.2	6.2	5.8	5.4						
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4						
	販売段階	2.6	5.1	4.9	5.7	5.6	4.8						
	29年産米	0.3	3.3	3.5	4.5	4.6	3.9						
	1年古米(28年産)	2.2	1.6	1.3	1.1	1.0	0.8						
福岡	出荷+販売段階	22.5	16.7	25.6	43.0	61.3	70.3						
	29年産米		0.7	15.0	34.2	54.6	65.7						
	1年古米(28年産)	22.1	15.7	10.4	8.7	6.6	4.6						
	出荷段階	18.9	12.9	17.7	30.6	49.8	60.5						
	29年産米		0.4	9.6	26.5	46.9	58.6						
	1年古米(28年産)	18.8	12.4	8.1	4.0	2.8	1.8						
	販売段階	3.6	3.8	7.8	12.5	11.6	9.9						
	29年産米		0.3	5.4	7.7	7.7	7.1						
	1年古米(28年産)	3.3	3.3	2.3	4.7	3.8	2.8						
佐賀	出荷+販売段階	10.4	8.2	9.5	25.2	31.3	33.1						
	29年産米		1.2	5.2	23.9	29.8	32.1						
	1年古米(28年産)	10.2	6.9	4.2	1.2	1.4	0.9						
	出荷段階	9.1	7.0	8.5	23.0	28.0	30.0						
	29年産米		1.1	5.0	22.9	27.9	30.0						
	1年古米(28年産)	9.1	6.0	3.5	0.1	0.1							
	販売段階	1.3	1.2	1.1	2.2	3.3	3.1						
	29年産米		0.1	0.2	1.0	2.0	2.1						
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7	1.1	1.3	0.9						



(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	3.2	3.0	2.9	6.4	9.0	9.0						
	29年産米		0.8	1.6	5.1	8.1	8.5						
	1年古米(28年産)	3.2	2.2	1.3	1.3	1.0	0.5						
	出荷段階	2.8	2.7	2.5	5.3	8.0	8.2						
	29年産米		0.8	1.4	4.8	7.5	8.0						
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.1	0.5	0.4	0.2						
	販売段階	0.3	0.3	0.4	1.1	1.1	0.8						
	29年産米			0.2	0.3	0.6	0.5						
	1年古米(28年産)	0.3	0.3	0.2	0.7	0.5	0.3						
熊本	出荷+販売段階	15.3	12.7	11.7	29.8	39.6	41.0						
	29年産米		2.6	5.4	27.0	37.6	39.3						
	1年古米(28年産)	15.1	9.8	6.2	2.7	2.0	1.5						
	出荷段階	11.5	8.6	7.3	21.0	29.3	30.0						
	29年産米		1.7	3.4	19.8	28.6	29.8						
	1年古米(28年産)	11.5	6.9	3.9	1.2	0.7	0.2						
	販売段階	3.9	4.0	4.4	8.9	10.3	11.0						
	29年産米		0.9	2.0	7.2	8.9	9.5						
	1年古米(28年産)	3.6	2.9	2.3	1.5	1.3	1.3						
大分	出荷+販売段階	6.5	5.0	4.6	9.6	16.3	19.5						
	29年産米		0.5	1.9	8.1	15.3	18.7						
	1年古米(28年産)	6.3	4.4	2.6	1.4	1.0	0.8						
	出荷段階	4.8	3.6	2.9	6.2	11.7	14.1						
	29年産米		0.3	1.1	5.5	11.3	13.7						
	1年古米(28年産)	4.8	3.3	1.8	0.7	0.5	0.4						
	販売段階	1.7	1.4	1.6	3.4	4.6	5.4						
	29年産米		0.2	0.8	2.6	4.0	5.0						
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.8	0.8	0.5	0.4						
宮崎	出荷+販売段階	8.7	8.0	4.1	11.0	13.3	14.0						
	29年産米	5.2	5.6	2.7	10.1	12.5	13.1						
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.3	0.9	0.7	0.9						
	出荷段階	6.8	4.3	1.0	7.7	10.4	11.2						
	29年産米	4.5	2.9	0.3	7.5	10.1	11.0						
	1年古米(28年産)	2.3	1.5	0.6	0.3	0.3	0.3						
	販売段階	1.9	3.7	3.1	3.3	2.9	2.8						
	29年産米	0.8	2.8	2.4	2.6	2.4	2.2						
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7	0.6	0.5	0.6						
鹿児島	出荷+販売段階	7.7	9.9	7.7	14.1	19.3	17.7						
	29年産米	0.5	4.3	3.7	11.2	16.9	15.7						
	1年古米(28年産)	6.8	5.3	3.8	2.9	2.4	2.0						
	出荷段階	5.4	5.3	3.6	9.7	13.9	12.5						
	29年産米	0.1	1.0	0.5	7.3	11.8	10.9						
	1年古米(28年産)	5.0	4.1	3.0	2.4	2.0	1.6						
	販売段階	2.2	4.6	4.1	4.4	5.4	5.1						
	29年産米	0.4	3.3	3.2	3.9	5.1	4.8						
	1年古米(28年産)	1.7	1.2	0.8	0.5	0.4	0.3						
沖縄	出荷+販売段階	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1						
	29年産米	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1						
	1年古米(28年産)												
	出荷段階	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1						
	29年産米	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1						
	1年古米(28年産)												
	販売段階	0.3	0.1	0.1									
	29年産米	0.3	0.1	0.1									
	1年古米(28年産)												

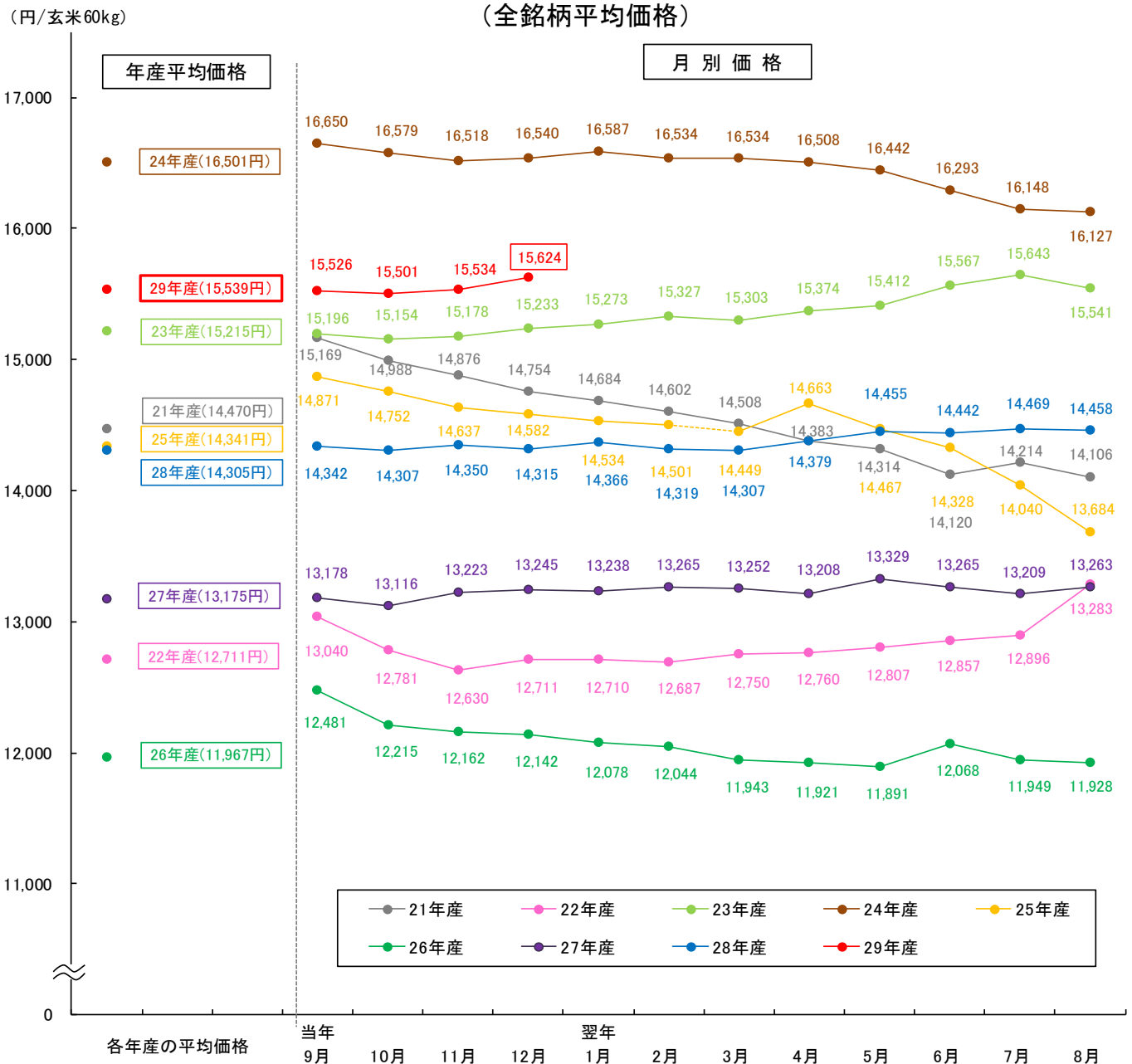
### Ⅲ 米の価格情報

#### 1 相対取引価格・数量

##### (1) 相対取引価格（年産別）

- 平成28年産米の平成29年12月の全銘柄平均価格は、前年産の同時期と比べ+1,309円/60kg。
- ※ 産地銘柄ごとの価格は、22頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）  
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（平成26年3月までは5%、同年4月以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（28年産は平成29年8月、29年産は平成29年12月）までの通年平均価格。（28年産及び29年産は速報値ベース）

## (2) 価格帯別分析結果（平成29年12月）

- 平成28年産米と平成29年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成28年産の価格が15,000円以上の銘柄は+603円、13,000円未満の銘柄では+1,541円。
- 産地銘柄ごとでは、「茨城県産あきたこまち」が最も上昇しており、次いで、「秋田県産ひとめぼれ」、「奈良県産ヒノヒカリ」という状況。

### 価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

	平成28年産の相対取引価格			
	15,000円以上の銘柄の平均	15,000円～14,000円の銘柄の平均	14,000円～13,000円の銘柄の平均	13,000円未満の銘柄の平均
平成28年産(出回り～29年8月) ①	16,361	14,337	13,646	12,874
平成29年産(出回り～29年12月) (28年産価格帯ベース) ②	16,964	15,552	14,992	14,415
価格差 ②-①	+ 603	+ 1,215	+ 1,346	+ 1,541

### 平成28年産と平成29年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

			平成28年産 (出回り～平成29年8月) ①	平成29年産 (出回り～平成29年12月) ②	価格差 ②-①
茨城	あきたこまち		13,247	15,423	+ 2,176
秋田	ひとめぼれ		13,687	15,510	+ 1,823
奈良	ヒノヒカリ		12,919	14,734	+ 1,815
群馬	ゆめまつり		13,610	15,395	+ 1,785
奈良	コシヒカリ		13,155	14,861	+ 1,706
岡山	アケボノ		13,361	15,051	+ 1,690
福島	天のつぶ		13,354	15,019	+ 1,665
秋田	あきたこまち		14,174	15,835	+ 1,661
千葉	ふさこがね		12,835	14,493	+ 1,658
千葉	ふさおとめ		12,993	14,651	+ 1,658

### (3) 相対取引価格・数量（平成29年産米、産地品種銘柄別、平成29年12月分）

#### 相対取引価格・数量①（北海道から栃木まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年12月) ①	数量 29年産米 (29年12月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米 〔出回り～ 29年12月〕	28年産米 〔出回り～ 29年8月〕	対前年比 /
				29年産米 (29年11月)	対前月比 /	28年産米 (28年12月)	対前年比 /	29年産米 (29年11月)	対前月比 /	28年産米 (28年12月)	対前年比 /			
北海道	ななつぼし	15,922	24,658	15,646	102%	13,936	114%	31,411	79%	21,842	113%	15,804	14,236	111%
北海道	ゆめびりか	17,480	11,376	17,504	100%	17,029	103%	9,457	120%	8,044	141%	17,523	16,480	106%
北海道	きらら397	16,066	5,718	15,563	103%	14,368	112%	8,738	65%	2,593	221%	15,766	14,142	111%
青森	まっすら	14,805	9,115	14,619	101%	13,061	113%	13,322	68%	13,692	67%	14,651	13,211	111%
青森	つがるロマン	15,118	5,377	14,690	103%	13,181	115%	16,325	33%	7,115	76%	14,800	13,422	110%
岩手	ひとめぼれ	15,213	7,492	15,059	101%	13,754	111%	7,015	107%	17,533	43%	15,147	13,836	109%
岩手	あきたこまち	14,968	1,794	14,283	105%	13,564	110%	1,323	136%	2,269	79%	14,756	13,476	109%
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	13,233	-	-	-	698	-	14,660	13,242	111%
宮城	ひとめぼれ	15,478	15,953	15,700	99%	13,882	111%	6,074	263%	65,825	24%	15,439	13,945	111%
宮城	つや姫	15,937	632	15,948	100%	14,328	111%	1,434	44%	4,006	16%	15,670	14,376	109%
宮城	ササニシキ	15,983	270	15,876	101%	13,986	114%	968	28%	3,498	8%	15,561	14,114	110%
秋田	あきたこまち	15,956	34,220	15,987	100%	14,190	112%	15,070	227%	26,949	127%	15,835	14,174	112%
秋田	めんこいな	14,691	756	15,357	96%	13,366	110%	246	307%	875	86%	14,680	13,428	109%
秋田	ひとめぼれ	15,707	1,399	15,365	102%	13,663	115%	2,156	65%	1,764	79%	15,510	13,687	113%
山形	はえぬぎ	15,501	26,605	15,249	102%	13,518	115%	4,056	656%	17,324	154%	15,434	13,834	112%
山形	つや姫	18,189	7,306	18,122	100%	17,929	101%	2,857	256%	2,921	250%	18,136	17,867	102%
山形	ひとめぼれ	15,519	2,904	16,514	94%	14,470	107%	3,173	92%	1,143	254%	15,944	14,532	110%
福島	コシヒカリ(中通り)	15,465	19,154	15,240	101%	13,645	113%	3,582	535%	9,271	207%	15,398	13,877	111%
福島	コシヒカリ(会津)	15,363	1,546	15,388	100%	14,103	109%	1,986	78%	21,958	7%	15,390	14,208	108%
福島	コシヒカリ(浜通り)	14,592	1,885	14,798	99%	13,504	108%	523	360%	462	408%	14,620	13,376	109%
福島	ひとめぼれ	15,241	4,750	14,772	103%	13,220	115%	2,014	236%	6,826	70%	15,027	13,398	112%
福島	天のつぶ	15,200	2,875	14,532	105%	13,410	113%	611	471%	1,529	188%	15,019	13,354	112%
茨城	コシヒカリ	15,121	6,381	15,097	100%	14,238	106%	6,046	106%	3,701	172%	15,239	13,778	111%
茨城	あきたこまち	15,470	1,256	15,530	100%	13,091	118%	322	390%	909	138%	15,423	13,247	116%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,024	-
栃木	コシヒカリ	15,601	9,793	15,612	100%	13,862	113%	3,771	260%	19,137	51%	15,461	13,830	112%
栃木	あさひの夢	-	-	14,763	-	13,717	-	1,140	-	1,707	-	14,758	13,586	109%
栃木	なすひかり	14,946	249	14,676	102%	13,899	108%	519	48%	200	125%	14,670	13,900	106%

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注： 1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。

ただし、全農が締結する「福島、茨城、鳥取、岡山、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。

3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。

4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。

6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。

7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。

8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。

9 斜線は、当該年産米において産地品種銘柄の報告対象でなかったもの。

相対取引価格・数量②（群馬から兵庫まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年12月) ①	数量 29年産米 (29年12月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米	28年産米	対前年比
				29年産米 (29年11月)	対前月比	28年産米 (28年12月)	対前年比	29年産米 (29年11月)	対前月比	28年産米 (28年12月)	対前年比	(出回り～ 29年12月)	(出回り～ 29年8月)	
群馬	あさひの夢	15,542	1,456	15,385	101%	14,000	111%	4,022	36%	2,825	52%	15,384	13,803	111%
群馬	ゆめまつり	15,444	609	15,261	101%	13,531	114%	162	376%	110	554%	15,395	13,610	113%
埼玉	彩のかがやき	14,913	2,064	15,067	99%	13,566	110%	272	759%	1,608	128%	14,797	13,372	111%
埼玉	コシヒカリ	15,323	1,493	15,177	101%	13,795	111%	650	230%	257	581%	14,928	13,841	108%
埼玉	彩のきずな	15,080	1,740	13,498	112%	13,252	114%	116	1500%	554	314%	14,851	13,301	112%
千葉	コシヒカリ	14,864	5,280	15,247	97%	13,814	108%	1,656	319%	5,392	98%	14,962	13,718	109%
千葉	ふさこがね	14,343	2,439	14,594	98%	13,031	110%	769	317%	1,296	188%	14,493	12,835	113%
千葉	ふさおとめ	14,536	2,032	14,667	99%	13,234	110%	905	225%	952	213%	14,651	12,993	113%
山梨	コシヒカリ	17,632	403	17,627	100%	17,371	102%	419	96%	440	92%	17,639	16,977	104%
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,687	-
長野	コシヒカリ	15,561	11,795	15,418	101%	14,485	107%	10,212	116%	22,271	53%	15,531	14,538	107%
長野	あきたこまち	14,716	2,103	14,672	100%	13,577	108%	353	596%	2,116	99%	14,687	13,596	108%
静岡	コシヒカリ	15,389	306	15,156	102%	14,473	106%	231	132%	149	205%	15,363	14,845	103%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,659	13,296	103%
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,220	13,386	106%
新潟	コシヒカリ(一般)	16,907	11,925	16,846	100%	16,466	103%	12,686	94%	14,761	81%	16,873	16,176	104%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,578	2,670	20,700	99%	20,893	98%	3,192	84%	2,561	104%	20,641	20,416	101%
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,339	1,253	17,479	99%	16,970	102%	585	214%	2,264	55%	17,322	16,834	103%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,340	737	17,415	100%	16,997	102%	810	91%	2,797	26%	17,333	16,967	102%
新潟	こしいぶき	14,871	6,827	14,872	100%	13,669	109%	2,269	301%	9,147	75%	14,831	13,670	108%
富山	コシヒカリ	16,115	8,254	15,341	105%	15,274	106%	6,476	127%	12,702	65%	15,894	15,100	105%
富山	てんたかく	14,487	936	14,587	99%	14,056	103%	1,045	90%	951	98%	14,515	13,861	105%
石川	コシヒカリ	15,582	1,107	15,705	99%	14,747	106%	442	250%	1,469	75%	15,633	14,815	106%
石川	ゆめみづほ	14,213	100	-	-	13,403	106%	-	-	125	80%	14,443	13,233	109%
福井	コシヒカリ	15,965	3,193	15,752	101%	14,869	107%	3,680	87%	18,290	17%	15,812	14,929	106%
福井	ハナエチゼン	14,912	1,341	14,527	103%	13,561	110%	958	140%	8,912	15%	14,654	13,527	108%
岐阜	ハツシモ	15,241	516	14,851	103%	14,052	108%	1,013	51%	403	128%	14,847	13,956	106%
岐阜	コシヒカリ	15,593	795	15,403	101%	14,997	104%	614	129%	320	248%	15,515	15,154	102%
岐阜	あきたこまち	14,449	308	-	-	-	-	-	-	-	-	14,282	13,220	108%
愛知	あいちのかおり	14,339	138	14,395	100%	13,321	108%	380	36%	827	17%	14,379	13,488	107%
愛知	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,694	13,823	106%
愛知	大地の風	14,341	159	14,366	100%	-	-	117	136%	-	-	14,354	13,466	107%
三重	コシヒカリ(一般)	15,226	121	-	-	14,219	107%	-	-	1,620	7%	14,900	14,369	104%
三重	コシヒカリ(伊賀)	-	-	-	-	14,588	-	-	-	1,011	-	15,315	14,781	104%
三重	キヌヒカリ	-	-	14,638	-	13,203	-	100	-	262	-	14,170	13,356	106%
滋賀	コシヒカリ	15,047	3,541	15,085	100%	14,361	105%	1,608	220%	2,241	158%	15,056	14,346	105%
滋賀	キヌヒカリ	14,100	1,366	14,209	99%	13,255	106%	847	161%	1,547	88%	14,212	13,270	107%
滋賀	日本晴	-	-	14,014	-	13,099	-	327	-	948	-	14,012	12,902	109%
京都	コシヒカリ	15,262	1,131	15,680	97%	14,978	102%	735	154%	732	155%	15,642	15,194	103%
京都	キヌヒカリ	14,500	455	14,765	98%	13,600	107%	249	183%	343	133%	14,622	13,706	107%
兵庫	コシヒカリ	17,154	185	15,653	110%	15,324	112%	7,073	3%	664	28%	15,693	15,193	103%
兵庫	ヒノヒカリ	14,337	1,921	14,022	102%	13,120	109%	1,232	156%	283	679%	14,211	13,207	108%
兵庫	キヌヒカリ	14,392	1,388	14,261	101%	13,168	109%	1,190	117%	350	397%	14,290	13,174	108%

注：本表の注意点は、前頁の脚注を参照。

相対取引価格・数量③（奈良から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (29年12月) ①	数量 29年産米 (29年12月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米	28年産米	対前年比
				29年産米 (29年11月)	対前年比	28年産米 (28年12月)	対前年比	29年産米 (29年11月)	対前年比	28年産米 (28年12月)	対前年比	(出回り～ 29年12月)	(出回り～ 29年8月)	
奈良	ヒノヒカリ	14,811	489	14,728	101%	13,189	112%	441	111%	709	69%	14,734	12,919	114%
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,861	13,155	113%
鳥取	コシヒカリ	-	-	14,744	-	13,988	-	566	-	150	-	15,112	14,006	108%
鳥取	きぬむすめ	14,030	137	14,053	100%	13,247	106%	753	18%	123	111%	14,266	13,173	108%
鳥取	ひとめぼれ	-	-	13,845	-	13,174	-	732	-	254	-	14,104	13,064	108%
島根	コシヒカリ	16,299	455	15,474	105%	14,601	112%	515	88%	2,610	17%	15,153	14,790	102%
島根	きぬむすめ	14,356	148	-	-	13,718	105%	-	-	364	41%	14,334	13,426	107%
島根	つや姫	-	-	15,199	-	14,499	-	157	-	278	-	15,149	14,530	104%
岡山	アケボノ	15,081	299	14,985	101%	13,349	113%	135	221%	132	227%	15,051	13,361	113%
岡山	あきたこまち	15,364	375	-	-	13,915	110%	-	-	290	129%	15,332	13,842	111%
岡山	ヒノヒカリ	15,410	232	15,469	100%	-	-	970	24%	-	-	15,292	13,804	111%
広島	コシヒカリ	14,991	1,400	14,787	101%	14,210	105%	1,479	95%	2,236	63%	15,039	14,157	106%
広島	あきろまん	13,835	537	13,919	99%	13,492	103%	255	211%	821	65%	14,014	13,155	107%
広島	ヒノヒカリ	13,832	108	-	-	12,961	107%	-	-	202	53%	13,903	12,835	108%
山口	コシヒカリ	14,993	454	14,876	101%	14,341	105%	644	70%	595	76%	14,895	14,446	103%
山口	ひとめぼれ	14,136	566	14,084	100%	13,228	107%	287	197%	702	81%	14,056	13,291	106%
山口	ヒノヒカリ	14,117	560	13,989	101%	13,172	107%	390	144%	424	132%	14,048	13,355	105%
徳島	コシヒカリ	15,411	159	-	-	14,580	106%	-	-	240	66%	15,266	14,032	109%
徳島	キヌヒカリ	14,580	120	14,580	100%	-	-	120	100%	-	-	14,450	13,275	109%
香川	ヒノヒカリ	14,096	514	14,037	100%	13,184	107%	555	93%	765	67%	14,060	13,185	107%
香川	コシヒカリ	14,625	521	14,612	100%	13,881	105%	575	91%	512	102%	14,597	13,868	105%
愛媛	コシヒカリ	14,212	332	14,203	100%	13,138	108%	361	92%	331	100%	14,386	13,326	108%
愛媛	ヒノヒカリ	13,623	129	13,650	100%	-	-	120	108%	-	-	13,640	12,473	109%
愛媛	あきたこまち	13,657	115	13,678	100%	12,354	111%	140	82%	123	93%	13,764	12,530	110%
高知	コシヒカリ	15,114	240	15,114	100%	14,323	106%	180	133%	132	182%	15,384	14,481	106%
高知	ヒノヒカリ	-	-	14,358	-	-	-	197	-	-	-	14,358	13,602	106%
福岡	夢つくし	15,966	1,572	16,037	100%	15,603	102%	641	245%	707	222%	16,177	15,780	103%
福岡	ヒノヒカリ	15,111	1,080	14,982	101%	14,125	107%	2,474	44%	1,235	87%	15,028	14,196	106%
福岡	元気つくし	15,778	2,094	15,791	100%	15,769	100%	2,801	75%	1,597	131%	15,845	15,614	101%
佐賀	さがびより	15,022	696	15,121	99%	14,242	105%	878	79%	761	91%	15,064	14,133	107%
佐賀	夢しずく	14,151	604	14,116	100%	13,277	107%	811	74%	623	97%	14,205	13,333	107%
佐賀	ヒノヒカリ	13,919	331	13,791	101%	13,164	106%	516	64%	145	228%	13,862	13,075	106%
長崎	ヒノヒカリ	15,372	397	15,246	101%	14,435	106%	266	149%	250	159%	15,323	14,395	106%
長崎	にこまる	15,589	356	15,587	100%	14,730	106%	291	122%	282	126%	15,584	14,713	106%
長崎	コシヒカリ	16,015	147	-	-	-	-	-	-	-	-	16,108	15,191	106%
熊本	ヒノヒカリ	14,817	790	14,728	101%	13,941	106%	507	156%	747	106%	14,793	14,242	104%
熊本	森のくまさん	14,894	110	-	-	14,094	106%	-	-	211	52%	14,908	14,526	103%
熊本	コシヒカリ	15,897	152	15,349	104%	15,541	102%	292	52%	370	41%	15,450	15,786	98%
大分	ヒノヒカリ	15,730	305	15,651	101%	14,308	110%	899	34%	995	31%	15,598	14,174	110%
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,302	14,462	106%
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,048	14,721	102%
宮崎	ヒノヒカリ	15,626	163	15,334	102%	-	-	249	65%	-	-	15,516	14,363	108%
鹿児島	ヒノヒカリ	15,662	178	15,269	103%	15,331	102%	359	50%	131	136%	15,149	15,217	100%
鹿児島	あきほなみ	-	-	15,618	-	-	-	142	-	-	-	15,628	15,405	101%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,542	15,222	102%
全銘柄平均価格、合計数量		15,624	303,022	15,534	101%	14,315	109%	232,910	130%	408,142	74%	15,539	14,305	109%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

## (4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

### スポット価格 [ 日本コメ市場株式会社 ]

税抜価格

#### 【平成29年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成29年 8月	平成29年 9月	平成29年 10月	平成29年 11月	平成29年 12月	平成30年 1月
北海道なつぼし	日本コメ市場(取引会)						
北海道きさらぎ97	日本コメ市場(随時)						
青森まっしぐら	日本コメ市場(取引会)						
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)						
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)						
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)						
	日本コメ市場(取引会)						
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)		15,193	15,508	15,756	15,700	15,858
	日本コメ市場(取引会)		15,297				16,052
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)		14,600		15,003		
	日本コメ市場(取引会)				15,003		
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)						15,033
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			14,903			15,300
	日本コメ市場(取引会)						15,453
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)		14,600				
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)					15,100	
	日本コメ市場(取引会)						
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)				14,510		
千葉コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)	14,550	14,680		15,000		14,880
千葉あきたこまち	日本コメ市場(取引会)	14,387					
千葉ふさこがね	日本コメ市場(取引会)		14,225		14,600		14,880
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	14,003					
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)		15,613				
	日本コメ市場(取引会)		15,500		16,271		16,524
富山コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)						

#### 【平成28年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぼし	日本コメ市場(取引会)									15,193				
北海道きさらぎ97	日本コメ市場(随時)								14,106					
青森まっしぐら	日本コメ市場(取引会)		12,925											
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)				13,093	13,175		13,451						
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)					13,500	13,557		13,500					
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)							13,550					14,367	
	日本コメ市場(取引会)												14,700	
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,600	
	日本コメ市場(取引会)		13,471				13,731	13,883		14,391	14,614		15,500	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390		
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)									13,360				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)								13,481	13,631	14,011	14,250		
	日本コメ市場(取引会)	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700				13,997
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)	12,834												14,043
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168		
	日本コメ市場(取引会)						13,145						14,350	
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)					12,900	12,919							
千葉ふさこがね	日本コメ市場(取引会)		12,913						13,310					
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	12,661												
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)										14,717	14,864	14,933	
	日本コメ市場(取引会)		15,231				14,400	14,325	14,117	13,950			15,300	
富山コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)												14,412	14,550

出典： 日本コメ市場株式会社HP

注：1 日本コメ市場(随時)の価格は、随時取引(取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引)の下期(16日～月末分)。ただし、下期が公表されていない場合は上期)の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場(取引会)の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格(取引数量により加重平均)であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

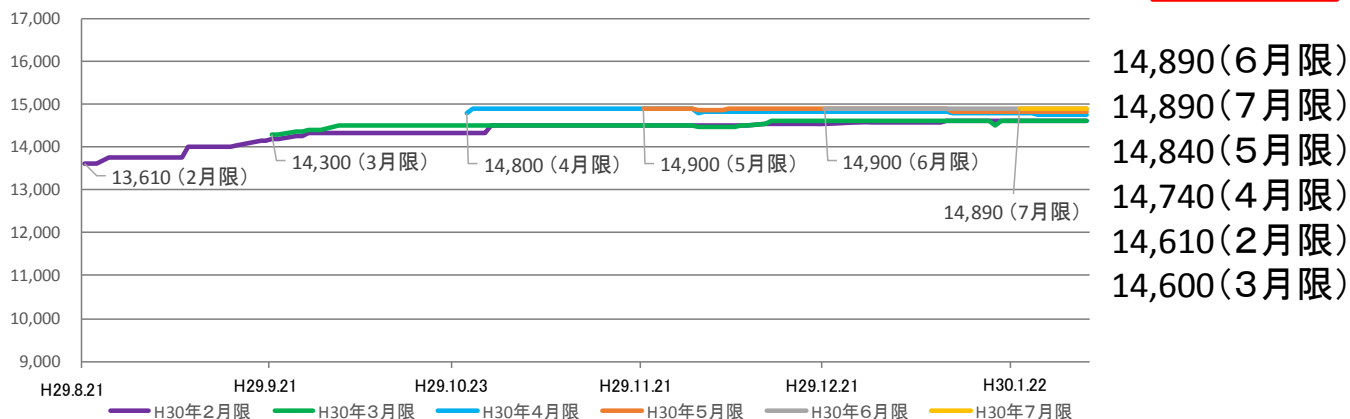
## 2 米の先物取引価格の推移

- 米の先物取引価格（2月2日）は、先月（1月4日）に比べ終値で、東京コメが▲70円/60kg（4月限）～+50円/60kg（2月限）、大阪コメが±0円/60kg（2、3、4、5、6月限）、新潟コシが▲130円/60kg（4月限）～+120円/60kg（6月限）。

### ①東京コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格



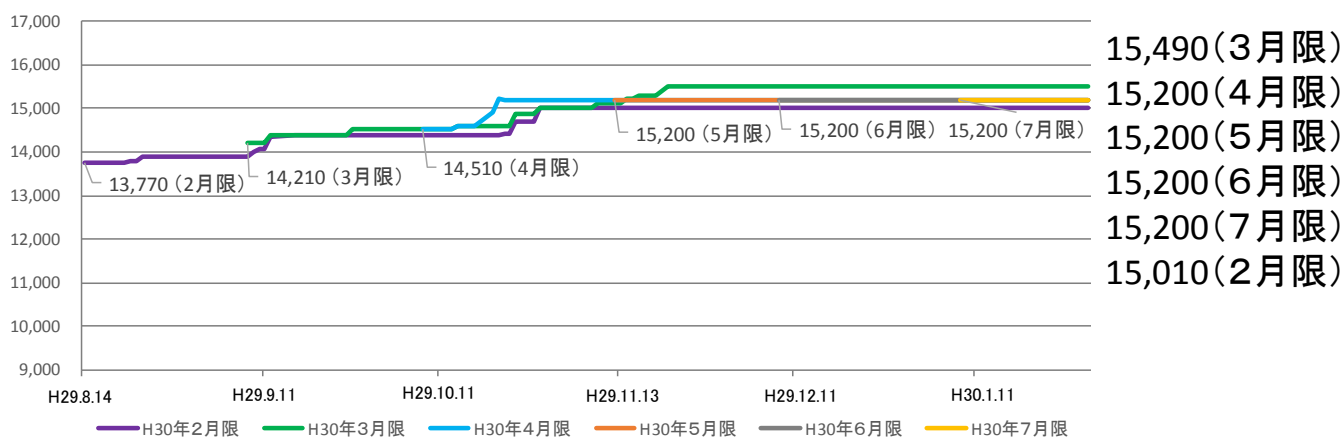
出典：大阪堂島商品取引所

注：平成29年8月21日から平成30年2月2日までの価格の推移である。

### ②大阪コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格



出典：大阪堂島商品取引所

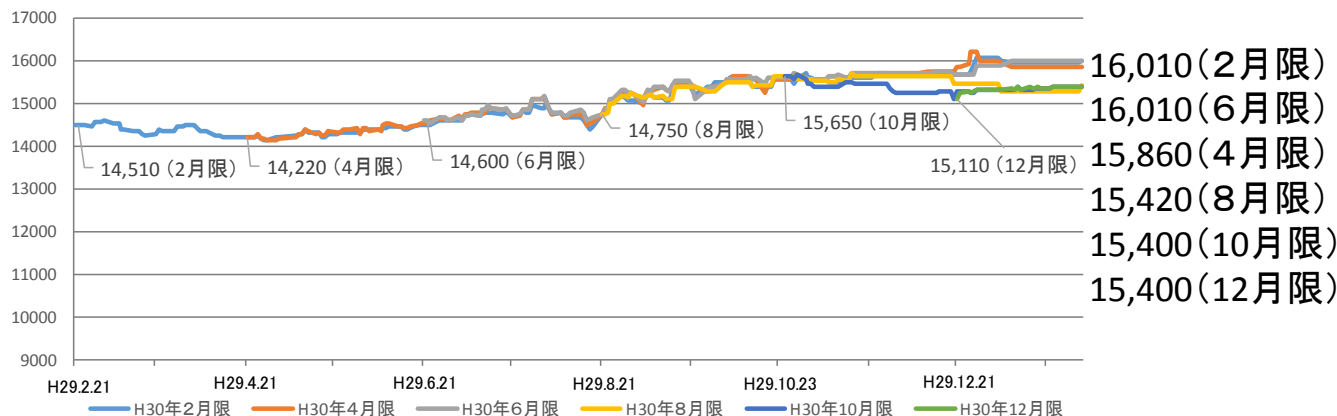
注：平成29年8月14日から平成30年2月2日までの価格の推移である。

### ③新潟コシ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格

※10月限より新穀（平成30年産）



出典：大阪堂島商品取引所

注：平成29年2月21日から平成30年2月2日までの価格の推移である。



### 3 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成30年1月分)

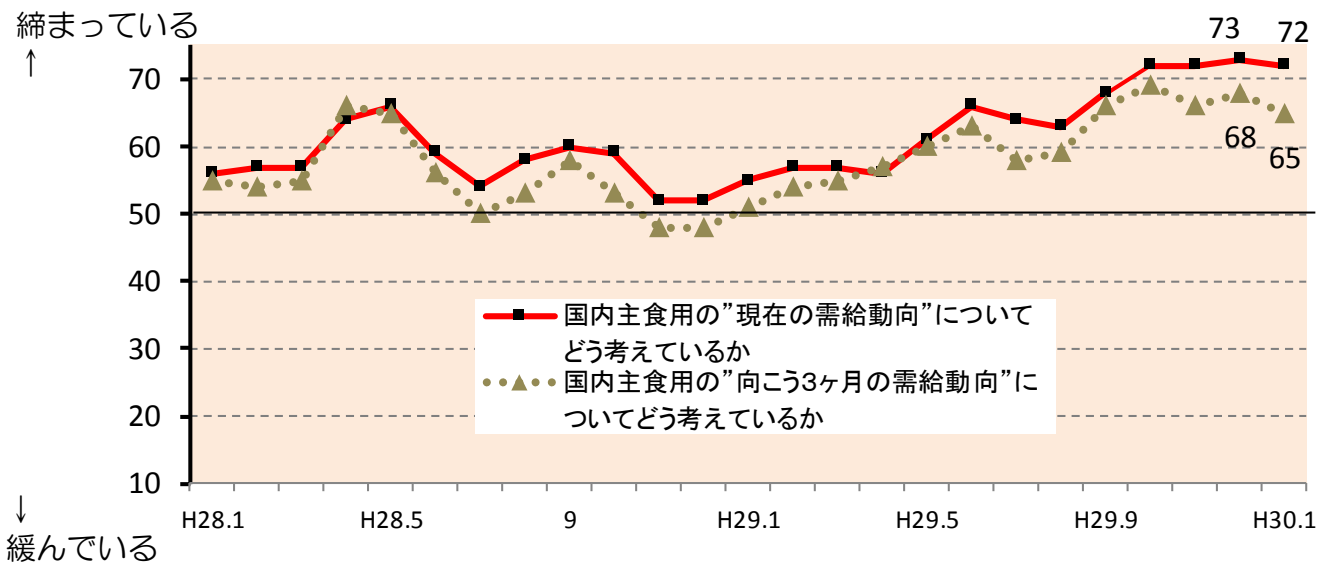
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成30年1月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は▲1ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は▲3ポイント。

#### 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

##### ① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減 ▲ 1 (今月の数値 72)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減 ▲ 3 (今月の数値 65)

#### 主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など  
詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。  
【<http://www.komenet.jp/>】  
また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

##### 《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の164客体
- 有効回答数: 127客体
  - 生産者…………… 8
  - 集出荷業者/団体…………… 24
  - 卸売業者(主に主食用米) …… 29
  - 小売業者/中食・外食業者 …… 49
  - その他…………… 17

※「その他」は以下の業者です。  
・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者  
・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は▲1ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は▲4ポイント。

② 主食用米の米価水準

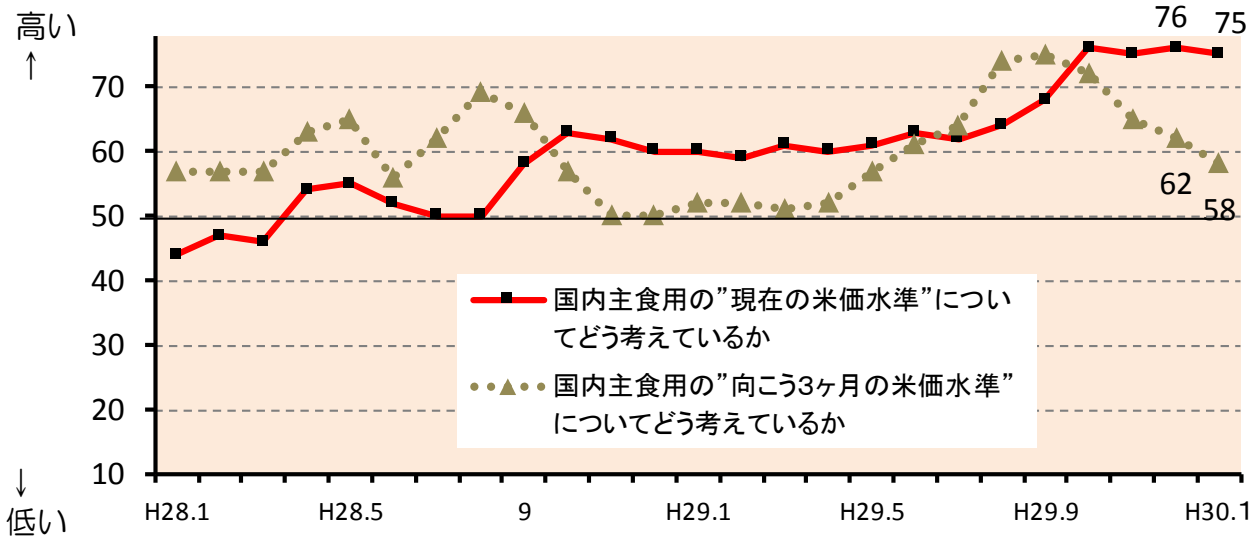
(ア) 現状判断D I

前月からの増減 ▲1 (今月の数値 75)

(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)

前月からの増減 ▲4 (今月の数値 58)

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

## Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

### 1 29年産米の作付状況

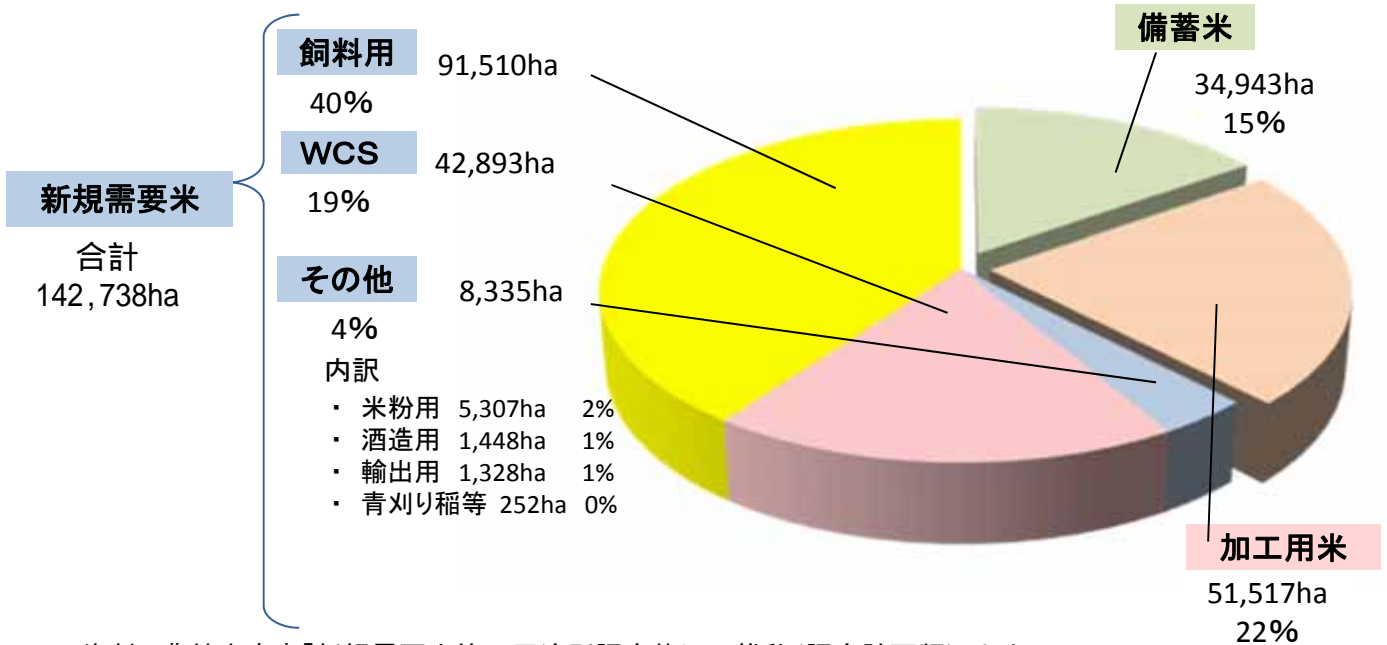
- 平成29年産米の作付面積は、主食用米が137.0万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米14.3万ha、加工用米5.2万ha、備蓄米3.5万ha。

#### (1) 29年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	160.0	137.0	14.3	5.2	3.5
生産量（万トン）		731	53	28	20

※主食用米の生産量は、農林水産省「平成29年産水稻の作付面積及び収穫量（12月5日現在）」の収穫量である。  
 ※新規需要米のうちWCS、青刈り等、子実を持たないものは、生産量に計上していない

#### (2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：農林水産省「新規需要米等の用途別認定状況の推移（認定計画版）」より  
 なお、備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの29年度報告値。

注：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

#### (3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米（29年産）							
	飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稻	青刈り稻等	その他	
作付面積（ha）	142,738	91,510	5,307	1,328	1,448	42,893	241	11
計画生産量（t）	526,461	483,325	28,331	7,349	7,424			31

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況（認定計画版）」。

注1：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

## 2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成28米穀年度における使用量は対前年と同程度の約96万トン（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 特定米穀の流通量の減少及び価格の上昇により、味噌を中心に、外国産原料への転換が見られたところ。

### (1) 28米穀年度（平成27年11月～28年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

#### <うるち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	13 (10)	9		3			25 (10)
米菓用	1	2		6	3	1	12
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					10
味噌用		1		6	2		9
焼酎用 (泡盛含む)		2		4	2		8
米穀粉用		1	2	1	3	1	8
その他用	1	1		2	1		4
合計	20	21	2	21	11	1	77

#### <もち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	8
米菓用	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	6	5		1	2	5	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約8万トンを含んでいない。

注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

注5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

#### 【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）

米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用、その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「酒造好適米の需要量調査」（農林水産省）等に基づく推計

加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「米粉をめぐる状況について」（農林水産省）による利用量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

## (2) 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

### ＜うるち米＞

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	26	11 (8)	9		4			24 (8)
	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
米菓用	26	1	1		5	3	2	12
	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26	5	5					10
	27	5	5					10
	28	5	5					10
味噌用	26		1		3	6		10
	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
焼酎用 (泡盛含む)	26				6	3		9
	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
米穀粉用	26		1	3	1	2	1	8
	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
その他用	26	1			2	1		4
	27	1			2	1		4
	28	1	1		2	1		4
合計	26	18	18	3	21	14	3	77
	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77

### ＜もち米＞

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
包装もち用	26	3	1			1	2	7
	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
米菓用	26	2	1			1	2	6
	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	26	1					1	3
	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26							1
	27	1						1
	28	1						1
その他用	26						2	2
	27						1	2
	28						1	2
合計	26	7	3		1	2	7	19
	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19

- 注1: 清酒用の( )書きは、酒造好適米で内数。  
 2: 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。  
 3: 焼酎は単式蒸留しょうちゆう(穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの(酒税法第3条第10号))であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。  
 4: その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。  
 5: 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75~1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米(一般的に「くず米」と呼ばれているもの)の総称。  
 6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

### 3 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成30年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
  - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
  - ② (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約42万トン～62万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
  - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ⑤ 畜産農家の新規需要量：64件、約2万トン（平成29年12月25日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A東日本くみあい飼料
東海	46	〃
近畿・中国	46	J A西日本くみあい飼料
四国	32	〃
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先: JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL: 03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成30年1月調査）

地区	需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	14~36	
東北	114~155	
関東	107~117	
中部	44~49	
関西	55~82	
九州	84~177	
合計	418~618	

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。  
 注2) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。  
 注3) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。  
 ※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。

※問い合わせ先: 「飼料用米ダイヤル」TEL: 03-3583-8031 E-mail: Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。  
 ※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量  
 ※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先: 全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL: 03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。  
 ※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量  
 ※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先: 日本養鶏連 事業部 TEL: 03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成30年産飼料用米の新規需要量（平成29年12月25日現在）

都道府県	新規需要量	
	件数	数量（トン）
岩手県	7	2,153
宮城県	1	2,400
茨城県	3	30
群馬県	2	250
埼玉県	1	1
千葉県	7	6,983
山梨県	8	53
長野県	10	819
静岡県	1	5
愛知県	2	220
大阪府	2	12
奈良県	5	1,610
広島県	1	200
香川県	4	110
福岡県	3	1,462
長崎県	3	280
大分県	2	2,020
宮崎県	2	2,254
<b>合計</b>	<b>64</b>	<b>20,862</b>

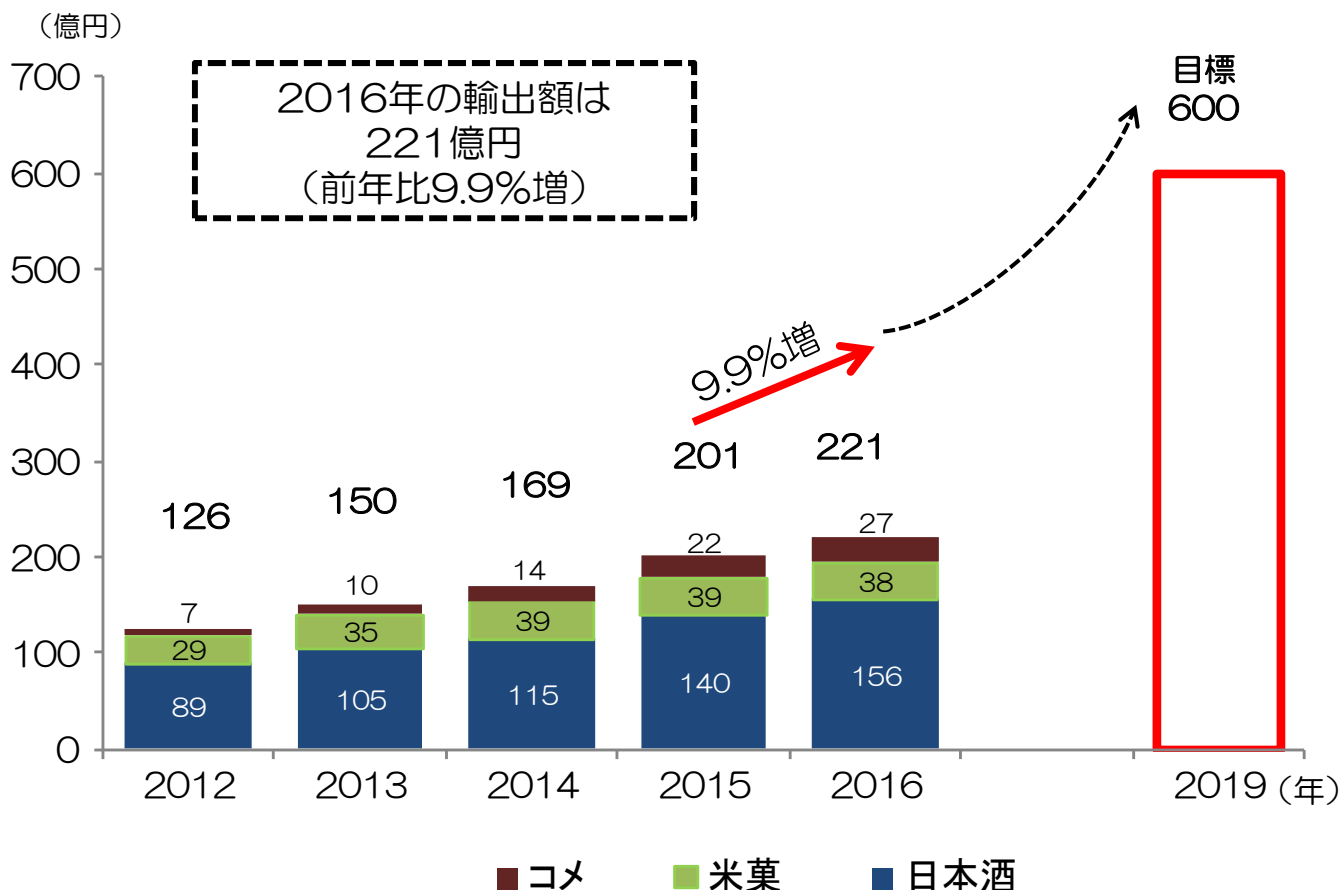
※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL:03-3502-5993

## 4 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2016年の輸出額は、221億円（前年比9.9%増）。

### コメ・コメ加工品の輸出状況



### コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）  
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。



## 5 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

### 2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成31年までに600億円とすることとしている。

### 輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

#### 【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



#### 【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



#### 【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



### 輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS  
JAPAN QUALITY  
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

## V 支援事業等

### (1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

### 水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算決定額:3,304(3,150)億円】

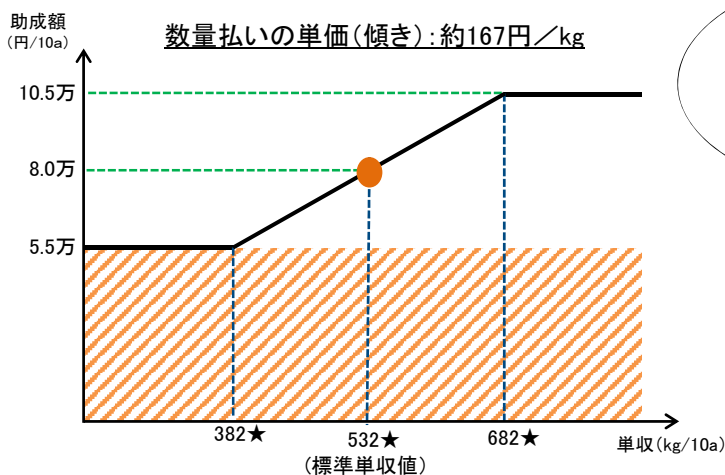
#### (1) 支援内容

##### ① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

#### <飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

#### <標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

## 水田活用の直接支払交付金(2)

### ② 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大 (1.0万円/10a)  
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓 (2.0万円/10a)  
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化 (10.5万円/10a)  
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

# 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- 支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- 支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- 作物別には、
  - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
  - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
  - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
  - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
  - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

## (1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	支払対象者		
		個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

## (2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

### ① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

### ② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

### ③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	—	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	—	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

## 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
  - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
  - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

### (3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

### (4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位:ha)

	飼料用米のわら利用	水田放牧	資源循環の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

## 米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

### (5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数(件)				支払面積(ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積10a控除前(ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

## (2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

### 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算決定額： 2,065(1,950)億円】

#### (1) 支援内容（数量払）

##### ① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハフ・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

##### ② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

##### ③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

##### ④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

##### ⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

##### ⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

## (2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

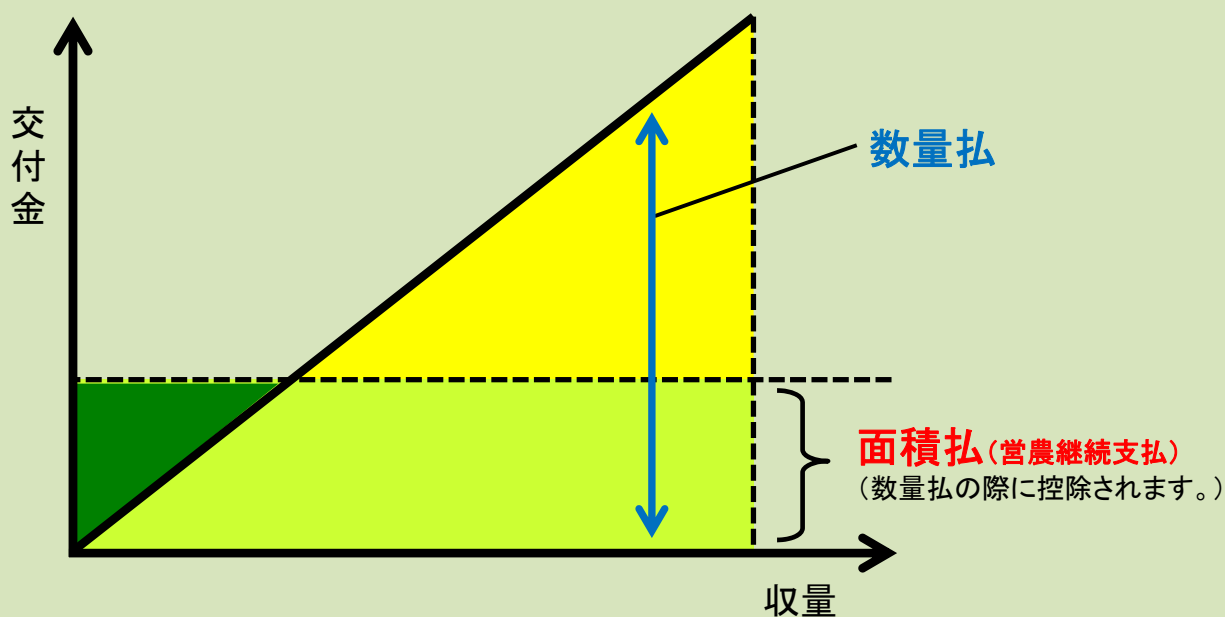
### ① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

### ② 交付単価

10aあたり2万円  
※「そば」は、10aあたり1万3千円

### ③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



#### 交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

**認定農業者、集落営農、認定新規就農者**  
(いずれも規模要件は課しません。)

#### 対象作物

麦、大豆、そば、なたね  
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ(北海道産のみ)  
(ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外)

### (3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

#### 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成30年度予算概算決定額：746(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

#### (1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

#### (2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

#### 【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

#### 【10a当たり当年産収入額とは】

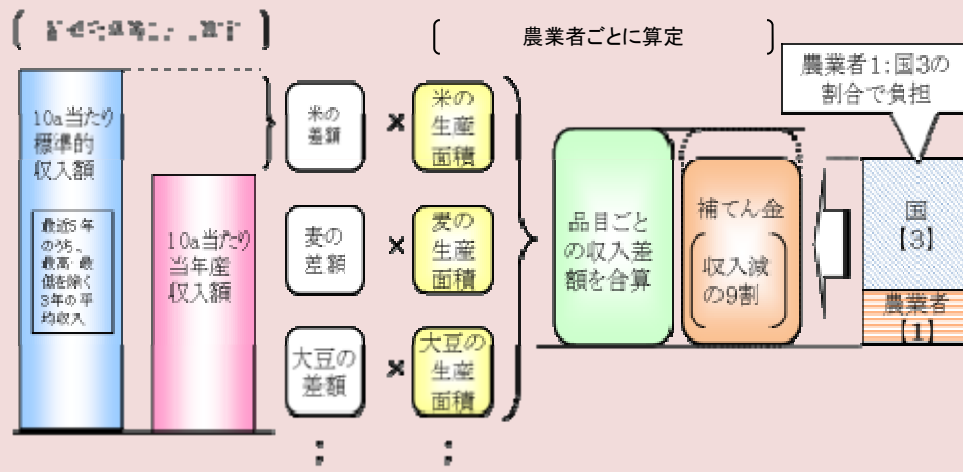
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

#### (3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。





(参考) 平成28年産ナラシ対策の支払い実績 (平成29年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県			加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国			106,991	57,064	178.65		
北 海 道			19,529	14,857	100.47	0	0
東 北	青 森 県		5,082	24	0.02	0	0
	岩 手 県		3,329	3,125	4.73	3,010	30
	宮 城 県		4,291	4,102	5.89	386	3
	秋 田 県		8,602	188	0.32	0	0
	山 形 県		7,597	1	0.00	0	0
	福 島 県		4,878	4,717	0.48	149	1
関 東	茨 城 県		3,140	2,988	3.40	3,612	36
	栃 木 県		5,230	874	1.32	0	0
	群 馬 県		943	302	0.62	0	0
	埼 玉 県		1,252	1,193	0.70	886	8
	千 葉 県		1,088	1,064	0.46	713	7
	東 京 都		3	3	0.00	1,101	11
	神 奈 川 県		125	124	0.03	1,806	18
	山 梨 県		129	116	0.09	3,849	38
	長 野 県		1,429	1,351	3.10	2,989	29
	静 岡 県		326	321	0.78	3,099	30
北 陸	新 潟 県		12,546	4,140	4.58	0	0
	富 山 県		1,506	377	2.53	0	0
	石 川 県		1,783	1,672	0.93	567	5
	福 井 県		1,163	194	0.12	0	0
東 海	岐 阜 県		663	642	3.46	2,485	24
	愛 知 県		614	463	3.44	145	1
	三 重 県		919	446	2.07	0	0
近 畿	滋 賀 県		2,324	2,291	7.42	2,472	24
	京 都 府		325	298	0.14	1,297	12
	大 阪 府		31	30	0.00	270	2
	兵 庫 県		1,109	860	0.75	2,405	24
	奈 良 県		91	80	0.09	8,366	83
	和 歌 山 県		73	0	0.00	0	0
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県		399	380	0.99	3,693	36
	島 根 県		719	98	0.20	0	0
	岡 山 県		858	50	0.15	0	0
	広 島 県		516	32	0.06	0	0
	山 口 県		827	769	0.80	538	5
	徳 島 県		160	10	0.01	0	0
	香 川 県		626	591	0.87	670	6
	愛 媛 県		628	601	0.98	4,151	41
	高 知 県		264	222	0.03	1,469	14
九 州	福 岡 県		2,084	1,282	7.76	0	0
	佐 賀 県		1,573	1,538	14.14	4,380	43
	長 崎 県		753	698	0.20	62	0
	熊 本 県		3,422	1,586	2.31	0	0
	大 分 県		1,353	515	1.36	0	0
	宮 崎 県		1,702	1,512	0.77	2,073	20
沖 縄 県		887	337	0.10	0	0	
沖 縄 県		100	0	0.00	0	0	

(注1) 加入件数は、平成28年7月31日時点(熊本県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成29年8月31日時点の数値である。

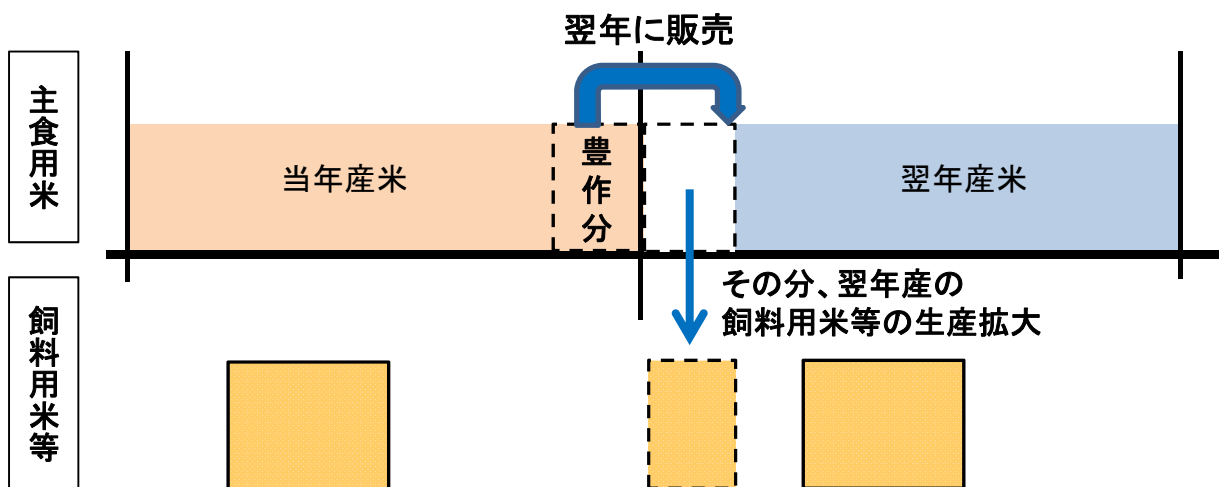
(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

## (4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

### ① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算決定額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。  
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算決定額 3,304億円（対前年+154億円））



### ② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

#### 全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援(定額)

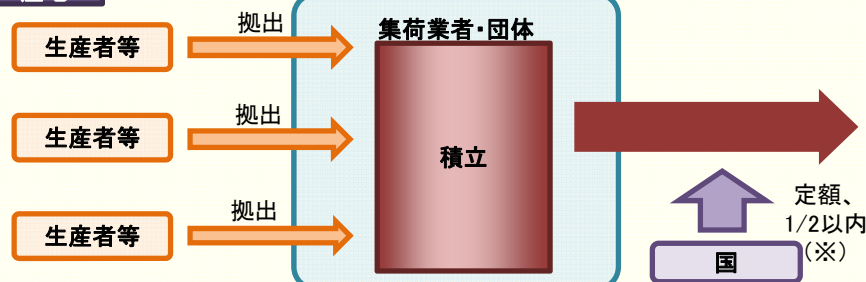
〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕

民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。  
→ 生産者と実需者の連携(マッチング)促進による安定供給の拡大



#### 産地



#### 産地自らの自主的な取組

- 主食用米の
- ① 周年安定供給のための長期計画的な販売
  - ② 輸出用向けの販売促進等
  - ③ 業務用向け等の販売促進等
  - ④ 非主食用への販売
- (※) 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

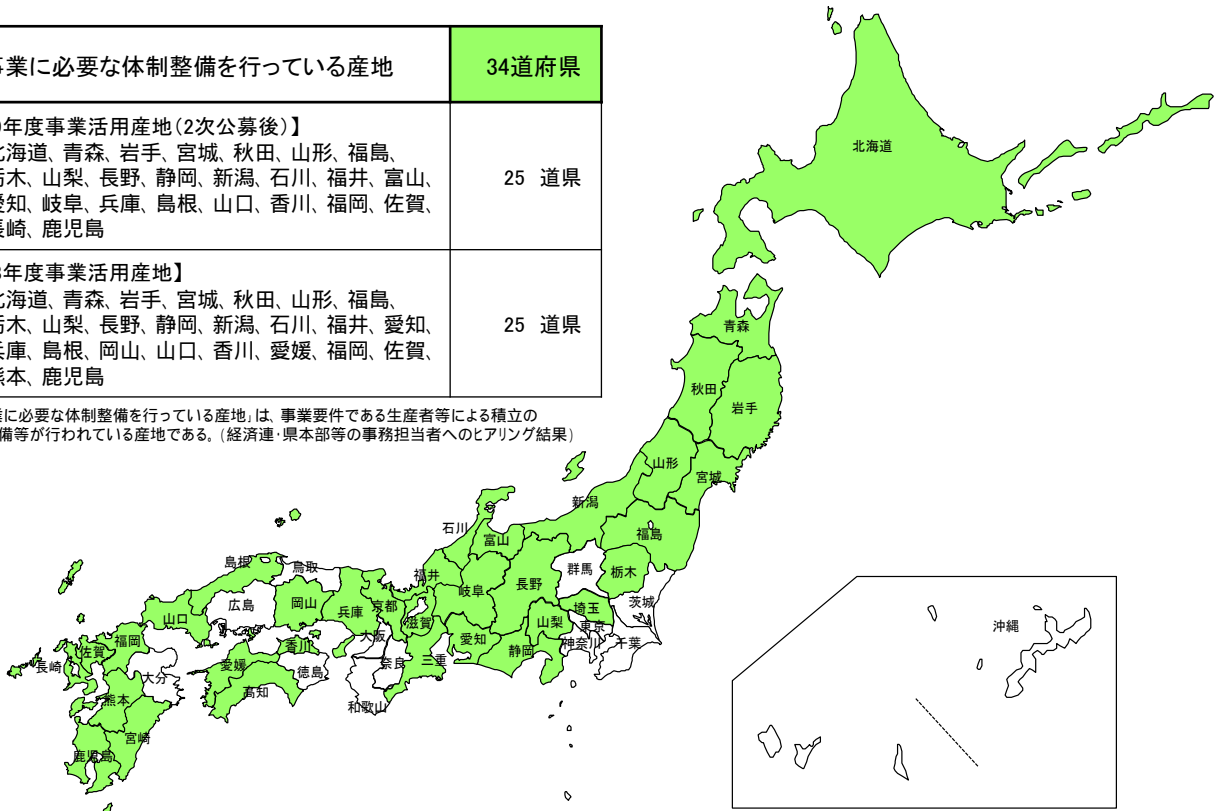
また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備状況

- 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備は、34道府県で行われている状況。
- 各産地の事業の活用状況は、平成27年度17道県（18事業者）、平成28年度25道県（27事業者）、平成29年度25道県（27事業者）が活用。
- 出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

事業に必要な体制整備を行っている産地	34道府県
【29年度事業活用産地(2次公募後)】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、 栃木、山梨、長野、静岡、新潟、石川、福井、富山、 愛知、岐阜、兵庫、鳥根、山口、香川、福岡、佐賀、 長崎、鹿児島	25 道県
【28年度事業活用産地】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、 栃木、山梨、長野、静岡、新潟、石川、福井、愛知、 兵庫、鳥根、岡山、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、 熊本、鹿児島	25 道県

注) 「事業に必要な体制整備を行っている産地」は、事業要件である生産者等による種立の体制整備等が行われている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクター(マツコ・デラックス)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR</li> <li>認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討</li> </ul>
秋田	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクター(小芝 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR</li> <li>食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布</li> <li>外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施</li> </ul>
山形	<p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクター(V6 長野 博)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR</li> <li>販路拡大に向けたコンサルティング活動</li> </ul>
新潟	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種メディアを活用した新潟県産米のPR</li> <li>JRエキナカ店舗との連携による販売促進活動の実施</li> <li>インターネット調査による新潟県産米の認知度・消費者ニーズ等の把握</li> </ul>
石川	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種メディアを活用した石川県産米のPR</li> <li>毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催</li> </ul>

(5) コメ海外市場拡大戦略プロジェクト（平成29年9月8日公表）

我が国のコメの消費量が毎年約8万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題。

→ コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である平成31年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しする。

(1) 戦略的輸出事業者

平成31年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

「戦略的輸出事業者」と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

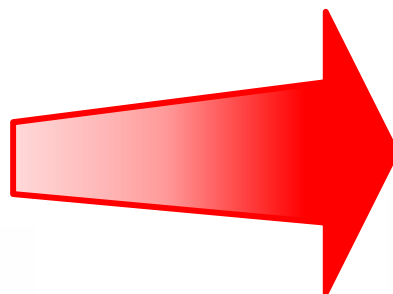
連携したプロモーション等の実施

(2) 戦略的輸出基地（産地）

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地（法人・団体）を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大



目標：10万トン<sup>(※)</sup>

(3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

## 「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」の参加状況について

### ○ 本プロジェクトの参加状況

平成30年1月31日時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況は以下のとおりとなっています。

(ア)戦略的輸出事業者 50事業者（目標数量合計 13.2万トン※）

(イ)戦略的輸出基地

- (1) 団体・法人 214産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 20団体  
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1団体  
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

(ウ)戦略的輸出ターゲット国

戦略的輸出事業者から提出された「重点的に輸出を拡大する国・地域」は以下のとおり。  
中国、台湾、香港、マカオ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、モンゴル、米国、カナダ、EU、スイス、オーストラリア、ロシア、中東

※輸出事業者の目標の積み上げにより、重複して計上される場合があります。

### ○ 今後の取組方針

海外市場における日本産米の需要をより一層喚起し、輸出拡大に繋げるため、平成29年度補正予算案に盛り込まれた輸出促進予算等を活用して戦略的輸出事業者による海外市場開拓を強力に推進します。

また、海外需要に応じた輸出用米の生産拡大を進めるため、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地の結びつけ・マッチングを進めるとともに、各県・地域が水田フル活用ビジョンの検討を進める中で、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地との間で輸出用米の具体的な生産数量や品種等の調整が進むよう、関係者が一体となって輸出用米生産の取組を推進します。

なお、引き続き、本プロジェクトに参加する輸出事業者及び産地の団体・法人を募集します。本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者及び産地の団体・法人は、下記URLの様式に必要事項を記載の上、以下の宛先に郵送、FAX又は電子メールにて提出してください。

「コメ輸出拡大プラン(輸出事業者用)」の提出先

100-8950  
東京都千代田区霞が関1-2-1  
農林水産省政策統括官付  
農産企画課企画班 近藤、林、福江  
E-mail:kome\_yusyutu@maff.go.jp  
TEL:03-6738-8964、FAX:03-6738-8976

「コメ輸出産地取組方針(産地の団体・法人用)」の提出先

〒100-8950  
東京都千代田区霞が関1-2-1  
農林水産省政策統括官付  
穀物課稲生産班 美保、谷口、平岡、安部  
E-mail:kome\_santi@maff.go.jp  
TEL:03-6744-2108、FAX:03-6744-2523

農林水産省ホームページで「米の輸出について」のページを開設しました！「米の輸出について」のページには、本プロジェクトの情報やコメ輸出に関する様々な情報を掲載しています。

また同ページには、コメの輸出について分かりやすく説明した動画を公開しています。

「農林水産省ホームページ」トップページの「キーワード」にある「米の輸出」からご覧頂けます！

(農新水産省ホームページ「米の輸出について」URL)

[http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome\\_yusyutu/kome\\_yusyutu.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html)

## VI 消費動向

### (1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年12月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲2.1%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で▲0.8%、中・外食は同▲4.9%。

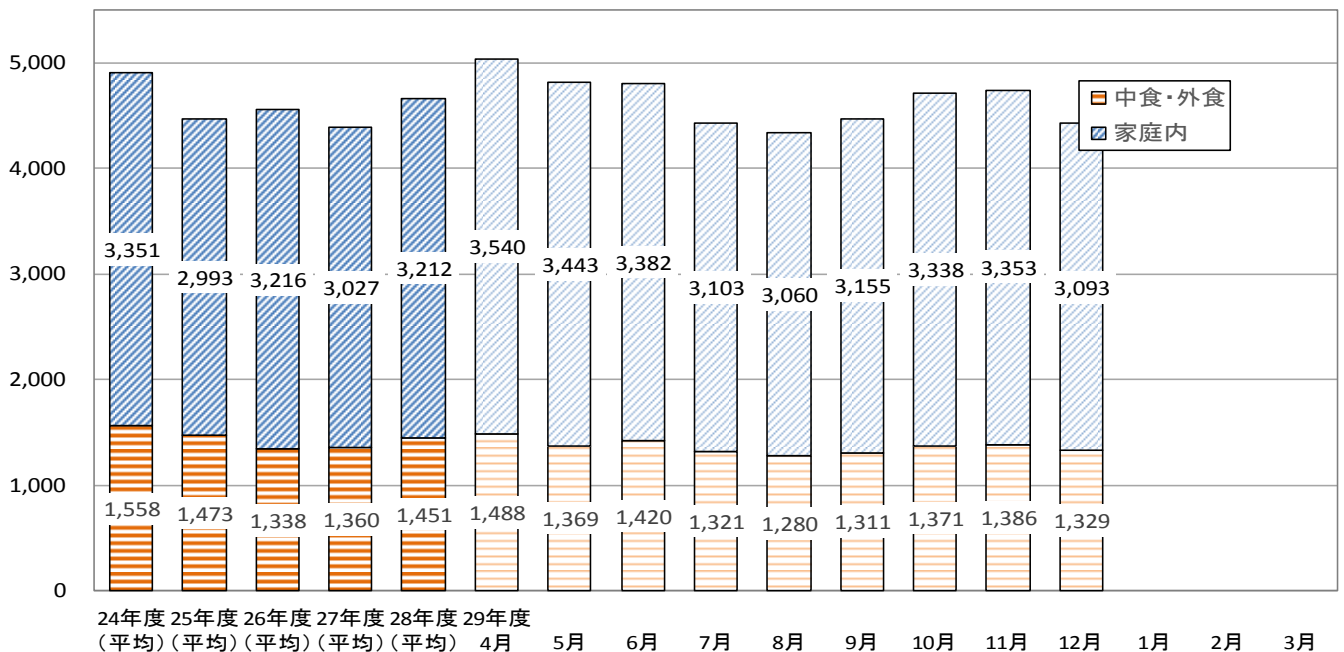
#### ① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

(精米g/人、%)

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食	
			中食	外食	中食	外食		中食	外食	中食	外食					
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲5.9	▲4.2	▲8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲1.2	3.0	▲10.1	▲9.0	▲11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲0.1	3.6	▲7.7	▲5.3	▲11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲1.9	2.6	▲11.2	▲13.9	▲7.3
	8月	4,340	3,060	1,280	731	549	100.0	70.5	29.5	16.8	12.6	▲4.4	▲1.5	▲10.8	▲12.6	▲8.5
	9月	4,466	3,155	1,311	740	571	100.0	70.6	29.4	16.6	12.8	▲3.1	▲0.7	▲8.4	▲12.0	▲3.2
	10月	4,709	3,338	1,371	782	589	100.0	70.9	29.1	16.6	12.5	1.1	3.5	▲4.5	▲6.2	▲2.0
	11月	4,739	3,353	1,386	801	585	100.0	70.8	29.2	16.9	12.3	2.1	3.4	▲1.1	▲1.0	▲1.2
	12月	4,422	3,093	1,329	750	579	100.0	69.9	30.1	17.0	13.1	▲2.1	▲0.8	▲4.9	▲7.7	▲0.9

#### 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

(精米g/人)



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成29年12月分の有効調査世帯数は2,165世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

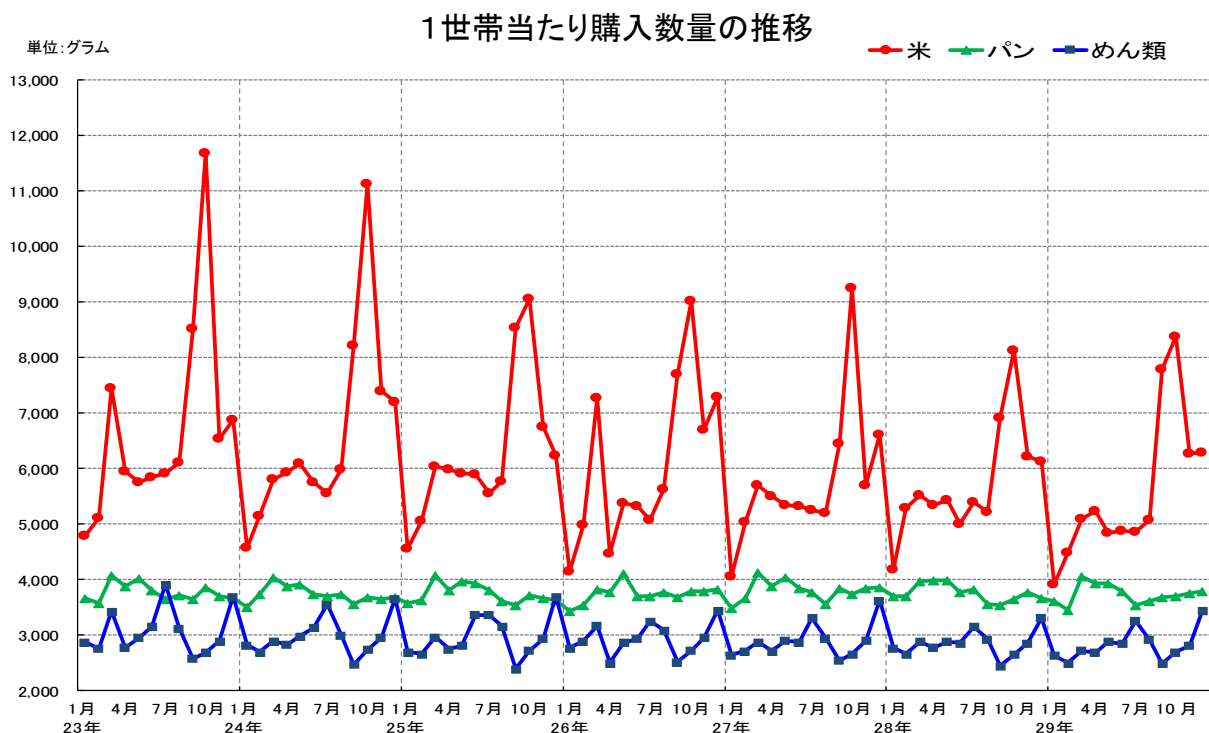
3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

## (2) 購入数量の推移 (家計調査)

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年12月の米の購入数量は、前年同月との比較で+2.6%の6.3kg、パンについては+3.4%の3.8kg、めん類については+3.8%の3.4kg。



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位: グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%
8月	5,070	97.3%	3,609	101.4%	2,918	99.8%
9月	7,780	112.6%	3,674	103.9%	2,490	101.9%
10月	8,380	103.2%	3,698	101.2%	2,695	101.6%
11月	6,260	100.8%	3,748	99.2%	2,816	98.6%
12月	6,280	102.6%	3,788	103.4%	3,434	103.8%

資料: 総務省「家計調査」

注: 1 二人以上の世帯の数値である。

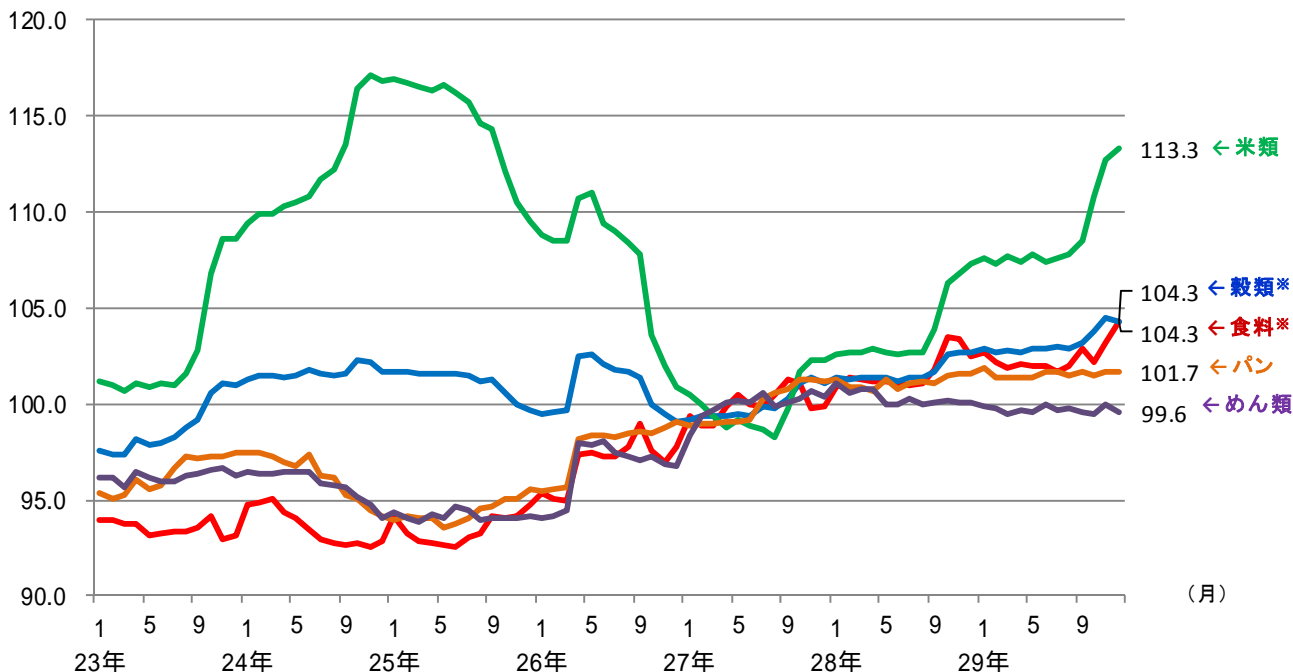
2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

### (3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年12月の米類の指数は、先月との比較では+0.5の113.3ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+5.5ポイント。

消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。  
 2 図中の数値は、平成29年12月の消費者物価指数となる。  
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移 (対前年同月比)

(平成27年=100、指数)

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%
7月	101.7	0.6%	103.0	1.5%	107.6	4.8%	107.9	5.0%	101.7	0.6%	99.7	▲0.5%
8月	102.0	0.9%	102.9	1.5%	107.8	4.9%	108.1	5.2%	101.5	0.3%	99.8	▲0.2%
9月	102.9	1.0%	103.2	1.4%	108.5	4.4%	108.9	4.6%	101.7	0.5%	99.6	▲0.5%
10月	102.2	▲1.3%	103.8	1.2%	110.8	4.2%	111.3	4.5%	101.5	▲0.1%	99.5	▲0.6%
11月	103.2	▲0.1%	104.5	1.7%	112.7	5.6%	113.3	5.9%	101.7	0.1%	100.0	▲0.1%
12月	104.3	1.8%	104.3	1.6%	113.3	5.5%	114.0	5.8%	101.7	0.1%	99.6	▲0.5%

資料：総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）

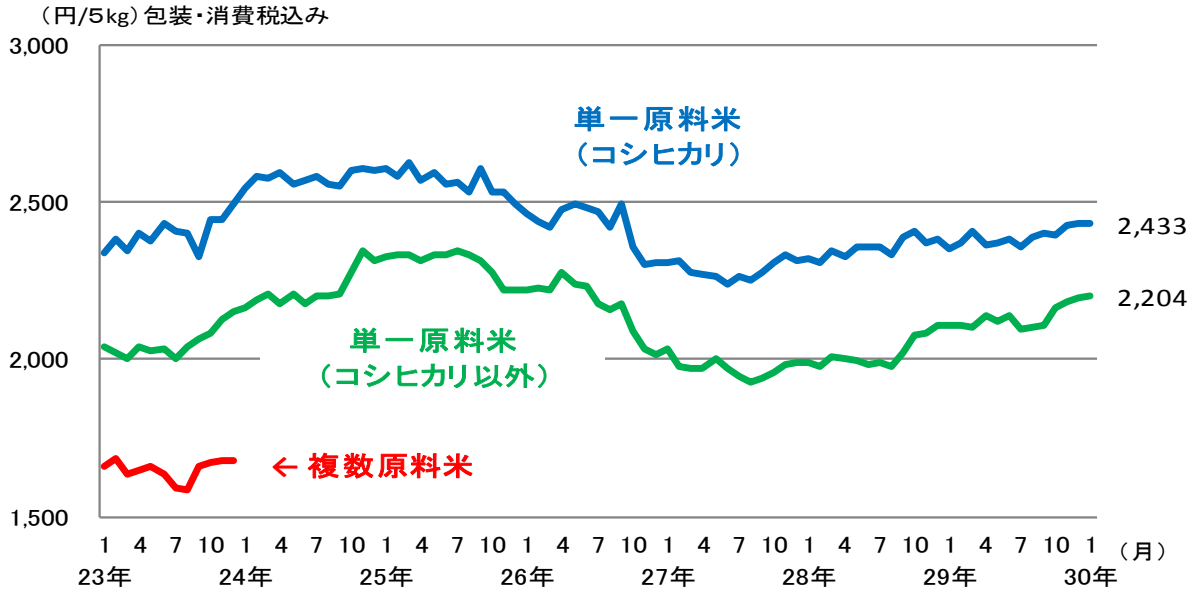
- 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。  
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。  
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。  
 4 平成20年から平成28年のデータは年平均、平成29年1月以降は月次データを用いている。



#### (4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成30年1月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より+3.3%の2,433円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+4.4%の2,204円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	-
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	-
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	-
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	-
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	-
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	-
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	-
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	-
9月	2,403	0.5%	2,108	4.4%	-
10月	2,395	▲0.7%	2,168	4.3%	-
11月	2,429	2.4%	2,185	4.7%	-
12月	2,434	2.1%	2,197	4.3%	-
平成30年1月	2,433	3.3%	2,204	4.4%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

注2：特売を除いた価格である。

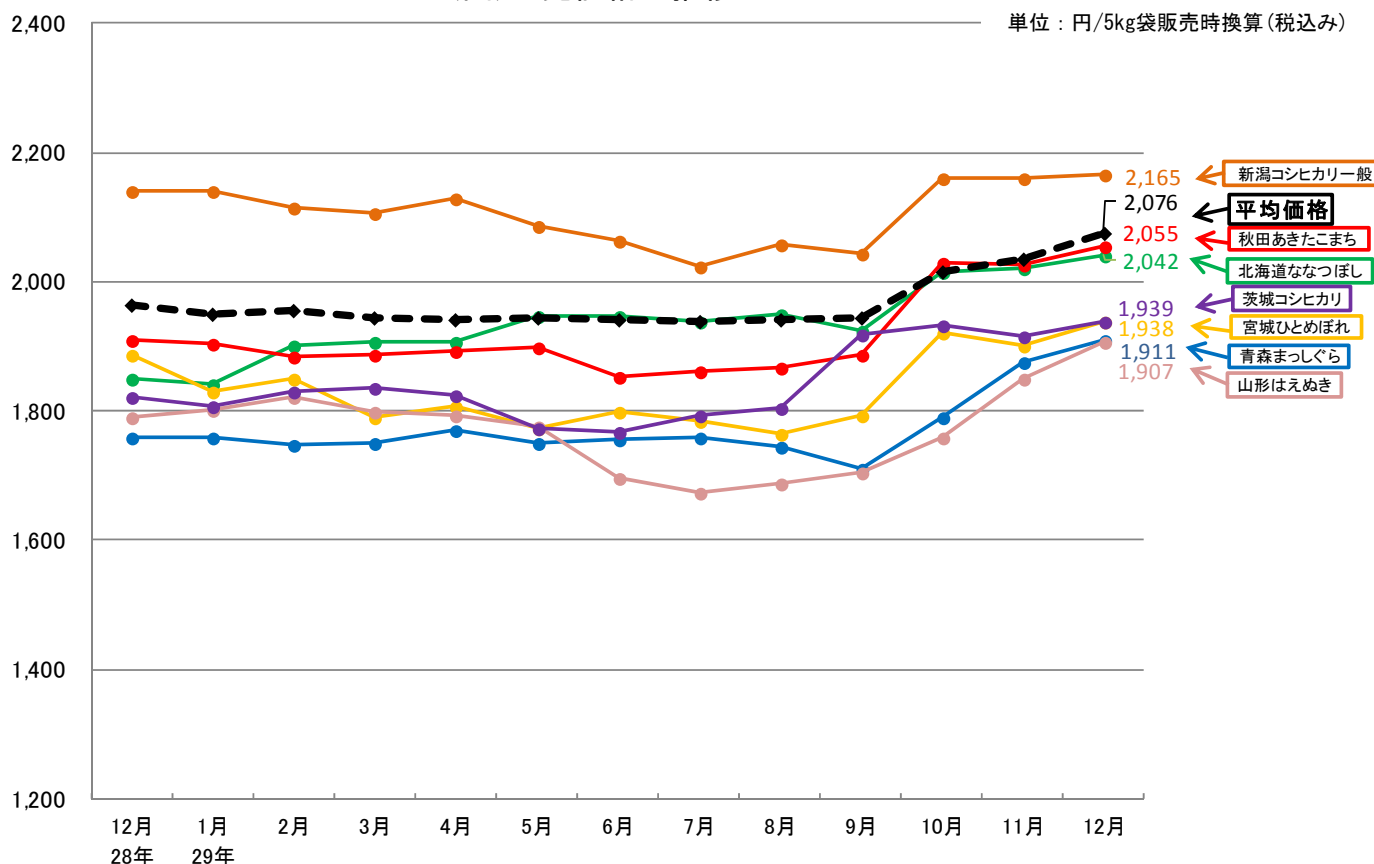
注3：精米ベースである。

注4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

## (5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年12月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より+42円(+2.1%)、前年同月より+113円(+5.8%)の2,076円。

(図) 小売価格の推移



(表) 小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
8月	1,950	1,745	1,765	1,868	1,687	1,806	2,057	1,942
9月	1,925	1,710	1,794	1,886	1,705	1,918	2,045	1,945
10月	2,017	1,791	1,923	2,031	1,758	1,934	2,161	2,015
11月	2,021	1,875	1,900	2,026	1,850	1,917	2,161	2,034
<b>12月</b>	<b>2,042</b>	<b>1,911</b>	<b>1,938</b>	<b>2,055</b>	<b>1,907</b>	<b>1,939</b>	<b>2,165</b>	<b>2,076</b>
対前月比	1.0%	1.9%	2.0%	1.4%	3.1%	1.1%	0.2%	2.1%
対前年同月比	10.4%	8.6%	2.7%	7.6%	6.4%	6.5%	1.2%	5.8%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

- 注：1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,020店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。  
 2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。  
 3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。  
 4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。  
 5 価格に含む消費税は8%である。

## Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

### （１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タイ	中 国	オーストラリア	その他	合 計	輸入方式別	
							うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (1月末現在)	273	208	56	48	1	586	511	75

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

## (2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位:実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成29年4～6月分	30,226	平成29年4～7月分	3,071
4月分	405	平成29年8～11月分	2,704
5月分	678	平成29年12～平成30年3月分	
6月分	1,000		
7～9月分	30,935		
7月分	206		
8月分	602		
9月分	1,073		
10～12月分	35,130		
10月分	478		
11月分	719		
12月分	914		
平成30年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小計	102,366	小計	5,775
合計	108,141		

資料:農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

## (3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位:実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成29年9月27日)	一般米	15,150	496	140		900		5,814		22,500
	砕精米	1,998	100	300		100				2,498
第2回 (平成29年11月29日)	一般米	12,586	830	768		40		8,276		22,500
	砕精米	1,600	200	292	108	300				2,500
第3回 (平成29年12月20日)	一般米	11,265	1,160	2,206	90	340		7,439		22,500
	砕精米	1,888	100	260	252					2,500
合計	一般米	39,001	2,486	3,114	90	1,280	0	21,529	0	67,500
	砕精米	5,486	400	852	360	400	0	0	0	7,498
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548

資料:農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～29年度

## VIII その他

### (1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稲うるち玄米の平成29年12月31日現在の検査数量は、406万トン。
- 1等米比率は、82.4%。

#### ① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	4,929
参考:前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	101%
29	13	244	1,463	3,268	3,851	4,062				
参考:前年比	72%	105%	88%	92%	95%	96%				

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値（平成28年産は速報値）である。

#### ② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,928,533	4,110,481	668,729	67,436	81,887	83.4	13.6	1.4	1.7
29(注3)	4,062,429	3,348,910	597,334	64,747	51,438	82.4	14.7	1.6	1.3

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年10月31日現在（速報値）。

3 29年産米については、平成29年12月31日現在（速報値）。

## (2) 平成29年産水稻の収穫量

(平成29年12月5日公表)

- ・ 主食用作付面積は137万ha (前年産差 1.1万ha) の見込み
- ・ 10a当たり収量は534kg (前年産差 10kg) の見込み
- ・ 主食用の収穫量は730.6万ト (前年産差 19万ト) の見込み

### 調査結果の概要

- 1 平成29年産水稻の作付面積(子実用)は146.5万haとなり、前年産に比べ1.3万ha減少した。うち主食用作付面積は137万haとなり、前年産に比べ1.1万ha減少した。
- 2 平成29年産水稻の全国の10a当たり収量は534kgとなり、作柄の良かった前年産に比べ10kgの減少が見込まれる。  
また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100となる見込み。
- 3 以上の結果、平成29年産水稻の収穫量(子実用)は782.2万トとなり、前年産に比べ22万トンの減少が見込まれる。このうち、主食用の収穫量は730.6万トとなり、前年産に比べ19万トンの減少が見込まれる。

### 平成29年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 農 業 地 域	水 稻							
	作付面積 (子実用) ①	10a当たり収量		収穫量(子実用)		参 考		
		実数 ②	前年産 との比較	実数 ③=①×②	前年産 との比較	主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②	作況指数
			対差		対差			
ha	kg	kg	t	t	ha	t		
全 国	1,465,000	534	△ 10	7,822,000	△ 220,000	1,370,000	7,306,000	100
北 海 道	103,900	560	9	581,800	3,200	98,600	552,200	103
東 北	374,800	564	△ 12	2,115,000	△ 50,000	334,300	1,882,000	99
北 陸	204,100	529	△ 38	1,079,000	△ 86,000	180,100	952,100	98
関 東・東 山	268,500	533	△ 9	1,431,000	△ 34,000	257,400	1,372,000	99
東 海	92,400	498	△ 16	460,100	△ 20,200	90,500	450,000	99
近 畿	103,200	510	△ 6	526,600	△ 12,100	99,400	507,000	100
中 国	104,300	530	4	552,400	△ 4,900	101,200	536,100	103
四 国	49,900	486	△ 6	242,400	△ 8,100	49,500	241,000	101
九 州	163,100	510	3	831,900	△ 7,800	158,700	811,400	101
沖 縄	727	301	8	2,190	△ 110	727	2,190	97

注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

4 沖縄県については、本公表時点で一部収穫を終えていない地域があり、収穫の状況によっては今後作柄が変動することがある(以下同じ。)

## 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

### ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成24年産	100.0	0.6	1.0	1.5	2.2	13.0	81.7
25	100.0	0.8	1.3	1.9	2.7	14.5	78.8
26	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29(概数値)	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.1	76.5
平均 値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.5	14.3	79.4
対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	0.3	0.4	1.8	△ 2.9

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる(以下同じ。)

### ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産	単 位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
		平成24年産	10a 当たり収量	kg	540	537	531	523
	収穫量(子実用)	t	8,519,000	8,468,000	8,383,000	8,255,000	8,067,000	6,960,000
25	10a 当たり収量	kg	539	535	528	517	503	425
	収穫量(子実用)	t	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000
26	10a 当たり収量	kg	536	532	524	513	499	420
	収穫量(子実用)	t	8,435,000	8,368,000	8,249,000	8,081,000	7,853,000	6,613,000
27	10a 当たり収量	kg	531	527	519	509	494	413
	収穫量(子実用)	t	7,986,000	7,922,000	7,810,000	7,651,000	7,435,000	6,213,000
28	10a 当たり収量	kg	544	540	534	524	511	435
	収穫量(子実用)	t	8,042,000	7,986,000	7,889,000	7,752,000	7,559,000	6,434,000
29 (概数値)	10a 当たり収量	kg	534	529	521	510	494	409
	収穫量(子実用)	t	7,822,000	7,752,000	7,634,000	7,470,000	7,243,000	5,984,000
	対前年比	%	97	97	97	96	96	93

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

・ [都道府県別](#)の平成29年産水稲の作付面積及び収穫量については、次頁に掲載。

・ 「平成29年産水陸稲の収穫量」公表資料は下記アドレスにてご覧いただけます。

[http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#suitou](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#suitou)

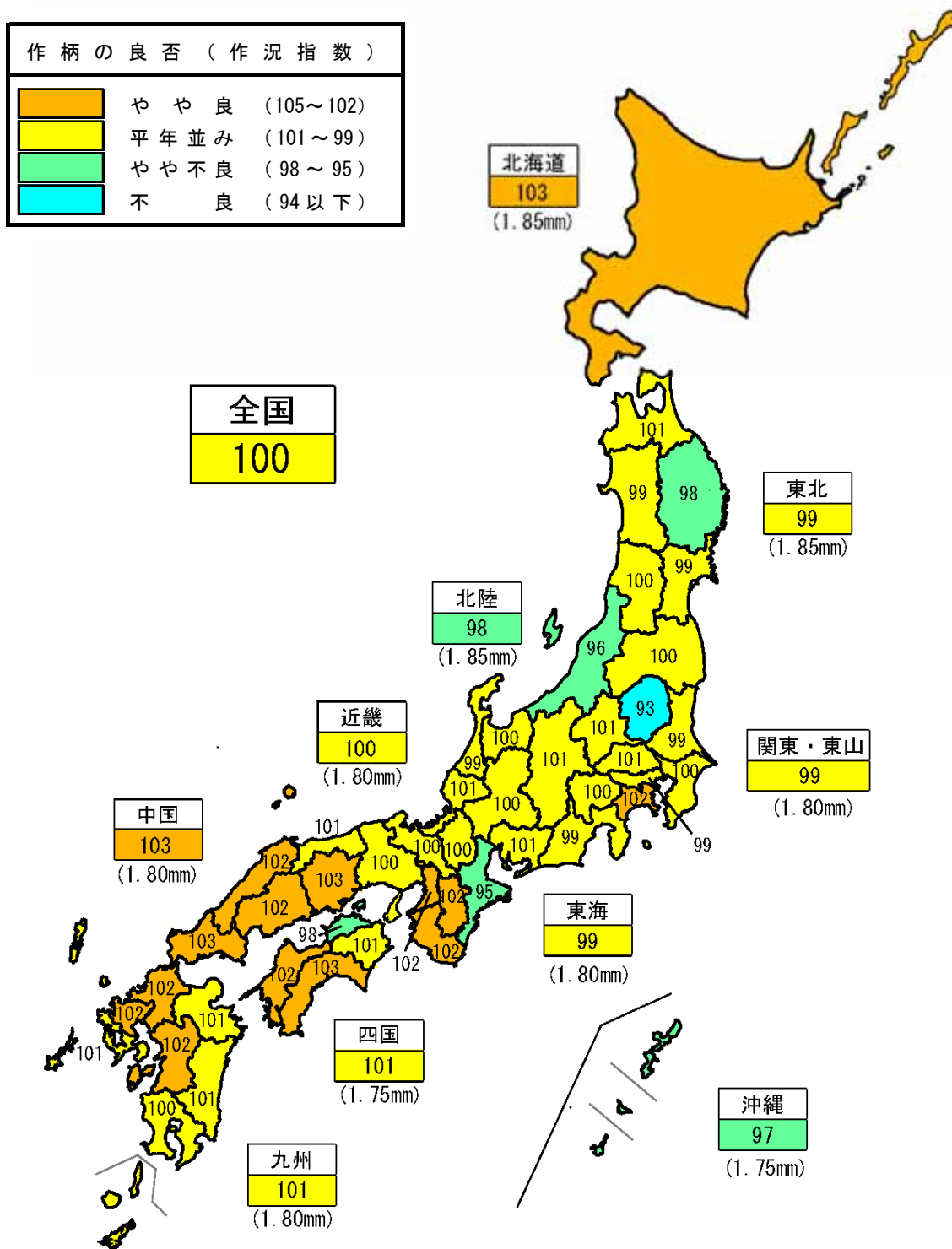
平成29年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 ・ 都 道 府 県	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり 収 量 ②	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別			収 穫 量 (子実用) ⑥=①×②	参 考		
			10 a 当たり 収 量 ③	10 a 当たり 平 年 収 量 ④	作 況 指 数 ⑤=③/④		主食用 作付面積 ⑦	収 穫 量 (主 食 用) ⑧=⑦×②	
全 国 (1)	1,465,000	534	517	518	100	7,822,000	1,370,000	7,306,000	(1)
北 海 道 (2)	103,900	560	546	530	103	581,800	98,600	552,200	(2)
青 森 (3)	43,400	596	576	573	101	258,700	38,000	226,500	(3)
岩 手 (4)	49,800	533	511	522	98	265,400	47,000	250,500	(4)
宮 城 (5)	66,300	535	512	519	99	354,700	63,500	339,700	(5)
秋 田 (6)	86,900	574	550	556	99	498,800	69,500	398,900	(6)
山 形 (7)	64,500	598	578	580	100	385,700	56,400	337,300	(7)
福 島 (8)	64,000	549	529	527	100	351,400	59,900	328,900	(8)
茨 城 (9)	68,100	525	510	515	99	357,500	66,400	348,600	(9)
栃 木 (10)	57,600	510	492	529	93	293,800	53,600	273,400	(10)
群 馬 (11)	15,500	499	483	479	101	77,300	13,900	69,400	(11)
埼 玉 (12)	31,600	494	478	475	101	156,100	30,700	151,700	(12)
千 葉 (13)	55,200	543	529	528	100	299,700	53,300	289,400	(13)
東 京 (14)	141	411	400	404	99	580	141	580	(14)
神 奈 川 (15)	3,090	509	488	478	102	15,700	3,090	15,700	(15)
新 潟 (16)	116,300	526	505	527	96	611,700	100,300	527,600	(16)
富 山 (17)	37,600	546	528	527	100	205,300	33,300	181,800	(17)
石 川 (18)	25,300	519	504	507	99	131,300	23,200	120,400	(18)
福 井 (19)	24,900	525	503	500	101	130,700	23,300	122,300	(19)
山 梨 (20)	4,960	549	531	533	100	27,200	4,880	26,800	(20)
長 野 (21)	32,300	629	616	607	101	203,200	31,300	196,900	(21)
岐 阜 (22)	21,900	488	479	478	100	106,900	21,500	104,900	(22)
静 岡 (23)	15,700	515	506	513	99	80,900	15,600	80,300	(23)
愛 知 (24)	27,500	512	503	499	101	140,800	26,600	136,200	(24)
三 重 (25)	27,400	480	466	489	95	131,500	26,800	128,600	(25)
滋 賀 (26)	31,700	517	504	506	100	163,900	30,000	155,100	(26)
京 都 (27)	14,700	510	501	502	100	75,000	14,100	71,900	(27)
大 阪 (28)	5,150	506	490	480	102	26,100	5,150	26,100	(28)
兵 庫 (29)	36,600	501	489	489	100	183,400	35,100	175,900	(29)
奈 良 (30)	8,610	521	508	500	102	44,900	8,580	44,700	(30)
和 歌 山 (31)	6,560	507	496	484	102	33,300	6,560	33,300	(31)
鳥 取 (32)	12,600	520	510	504	101	65,500	12,400	64,500	(32)
島 根 (33)	17,500	519	510	500	102	90,800	17,200	89,300	(33)
岡 山 (34)	30,100	544	531	514	103	163,700	29,100	158,300	(34)
広 島 (35)	23,700	534	524	513	102	126,600	23,100	123,400	(35)
山 口 (36)	20,300	521	508	492	103	105,800	19,300	100,600	(36)
徳 島 (37)	11,500	480	476	469	101	55,200	11,300	54,200	(37)
早期栽培 (38)	4,450	481	477	459	104	21,400	...	...	(38)
普通栽培 (39)	7,080	479	475	475	100	33,900	...	...	(39)
香 川 (40)	12,800	484	480	490	98	62,000	12,800	62,000	(40)
媛 愛 (41)	13,900	508	503	492	102	70,600	13,900	70,600	(41)
高 知 (42)	11,600	471	467	454	103	54,600	11,500	54,200	(42)
早期栽培 (43)	6,500	498	495	477	104	32,400	...	...	(43)
普通栽培 (44)	5,060	435	431	426	101	22,000	...	...	(44)
福 岡 (45)	35,700	509	488	477	102	181,700	35,100	178,700	(45)
佐 賀 (46)	24,600	531	511	503	102	130,600	24,400	129,600	(46)
長 崎 (47)	11,600	495	469	463	101	57,400	11,600	57,400	(47)
熊 本 (48)	33,300	527	508	497	102	175,500	32,200	169,700	(48)
大 分 (49)	21,000	506	483	480	101	106,300	20,900	105,800	(49)
宮 崎 (50)	16,300	499	485	482	101	81,300	15,000	74,900	(50)
早期栽培 (51)	6,460	494	486	470	103	31,900	...	...	(51)
普通栽培 (52)	9,870	503	485	490	99	49,600	...	...	(52)
鹿 児 島 (53)	20,400	486	468	469	100	99,100	19,600	95,300	(53)
早期栽培 (54)	4,460	472	464	434	107	21,100	...	...	(54)
普通栽培 (55)	16,000	490	468	478	98	78,400	...	...	(55)
沖 縄 (56)	727	301	297	305	97	2,190	727	2,190	(56)
第一期稲 (57)	537	354	350	363	96	1,900	...	...	(57)
第二期稲 (58)	190	152	147	160	92	289	...	...	(58)

- 注: 1 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積である。  
 2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積である。  
 3 全国の収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。  
 4 (参考)の農家等が使用しているふるい目幅で選別された③10a当たり収量、④10a当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。



# 全国農業地域・都道府県別作況指数 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85 mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80 mm、四国及び沖縄は1.75 mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

## (別冊)「資料編」の目次

I 契約・在庫情報	
(1) 平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
(2) 産地別事前契約数量 (累計、うるち米、平成26・27年産)	9
II 米の価格情報	
(1) 米の相対取引価格の推移 (通年平均価格)	12
(2) 業者間取引の状況	15
① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
④ 米の現物市場の状況	
III 主食用米以外 (輸出を含む)	
(1) 加工用米及び新規需要米の取組状況等	18
① 加工用米の生産量	
② 新規需要米の用途別認定状況	
③ 加工用米・新規需要米等の取組状況 (平成29年産、都道府県別)	
(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	20
(3) 政府備蓄米の運営	21
備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23~29年産)	
(4) 商業用の米の輸出量及び金額の推移	22
(5) 2016年の主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	23
(6) 米菓の輸出量及び金額の推移	24
(7) 日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	25
IV 消費動向	
(1) 米の消費動向 (米穀機構による調査)	26
(2) 小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	29
V その他	
(1) 米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成30年1月分)	30
(2) 平成28年産水陸稲の収穫量	35
(3) 水稲作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	39
(4) 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移 (全国)	39
(5) 麦・大豆の需要情報	42
① 30年産麦の産地別銘柄別入札結果	
② 29年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(6) 野菜等の需給情報	48
(7) 米の安定取引研究会報告書の概要	52

米に関するマンスリーレポート (本編・資料編) は、農林水産省のホームページからもご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

また、「米に関するマンスリーレポートの活用について」を農林水産省のホームページに掲載いたしましたので以下URLを参照ください。

(URL) [http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/attach/pdf/kome\\_seisaku\\_kaikaku-34.pdf](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/attach/pdf/kome_seisaku_kaikaku-34.pdf)

## 出展者（生産者）等のご案内

1	(株)ファイドイノベーション	10	JAひだ
2	(株)松原米穀	11	たじま農業協同組合
3	(株)金井農園	12	(株)コバヤシ
4	(株)神明	13	(有)米耕農
5	(株)大湯村カントリエレベーター公社	14	御稻ブライマル(株)
6	アグリロード	15	森田屋米店
7	(株)ライスグローワーズ	16	河北潟湖沼研究所
8	七尾市業務用米普及協議会	17	高村農園
9	ファームフレッシュヤマザキ		

※出展者は、平成30年1月17日現在の状況です。今後、増える見込みです。

### これまでのマッチングフェアにおける高談事例

北陸の生産法人が多収品種「ちほみのり」について、再生産可能な価格での取引（事前契約・複数年契約）を中食事業者と高談中。



## 出展者募集中!!

お申込みは2ノ2までに表面の  
お問い合わせ先まで

業務用途への安定取引に向けた

# 米マッチングフェア2017

東京会場



**実需者**  
中食・外食  
事業者等



**産地**  
大規模生産法人、  
農協等

**実需無料**  
まずはお電話を/  
中食・外食  
事業者等の  
皆様へ

【開催日】

**平成30年2月6日(火)・7日(水)**

**会場:TRC東京流通センター** (東京都大田区平和島6-1-1)  
(東京モノレール「流通センター」駅 徒歩1分)

米産地の法人や農協等が、ユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、複数年契約や播種前契約を締結するなど安定した取引につなげていくために展示商談会を開催します。この展示商談会に参加して、安定した米の供給先を開拓しませんか？

### 展示商談会について

2月6日(火)・7日(水) 10:00~16:00 (売り手/20ブース以上) 【詳細は裏面】

### セミナーについて

2月6日(火) 12:30~15:00 2月7日(水) ※第1部 11:00~12:00

●生産者、実需者を交えたトークセッション  
 生産者:五 梨子 氏(のり株式会社 代表取締役社長)  
 実需者:鈴木 隆 氏(アール・オー・エス株式会社 代表取締役社長)  
 司会者:小谷あゆみ 氏(コトアツカウナー)

講師:榎島 陽 氏(食糧政策 多収品種セクター 講師兼運営 上級研究員)  
 内容:「農研機構の稲品種」

主催 ●株式会社グレイン・エス・ピー  
 協賛 ●全国農業再生推進機構  
 後援 ●産林水産省 / (公社)日本農業法人協会 / 全国稲作経営者会 / (公社)日本穀類協会 / (公社)日本米穀流通協会 / (公社)日本米穀流通協会 / (公社)全国包米米穀協会 (FPC)

※本イベントは、農林水産省補助事業(平成29年度米穀流通年次計画 需要拡大支援事業)のうちの業務用米等の安定取引拡大取組事業)の下で(株)グレイン・エス・ピーが行います。

お問い合わせ  
 株式会社グレイン・エス・ピー  
 〒113-0038 東京都文京区湯島4-1-2 3F 3F303  
 TEL:03-5816-0708 FAX:03-5816-0709  
 E-mail:kome-matching@grain.jp

## 米マッチングフェア2017 展示商談会・セミナー 来場申込書

**FAX申込み先 03-3816-0708**

フリガナ	
会社・団体名	.....
担当者名	.....
住所	(〒 - )
電話番号	( ) ( ) FAX番号 ( )
携帯番号	.....
メールアドレス	.....